

食品安全情報（化学物質） No. 18/ 2023（2023. 8. 30）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部
(<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>)

目次（各機関名のリンク先は本文中の当該記事です）

【WHO】

1. 行動ガイド発表：スポーツイベントでのより健康的な食品と健康的な食環境
2. 鉛暴露：大きな公衆衛生上の懸念、第三版
3. 出版物

【FAO】

1. 世界的食品安全緊急対応ネットワークが 2020-2021 年の活動を報告
2. Codex

【EC】

1. 概要レポート：EU における食用の活二枚貝の生産と採捕に関する公的管理
2. 査察報告書
3. 食品及び飼料に関する緊急警告システム（RASFF）

【EFSA】

1. 農薬関連
2. 飼料添加物関連

【FSA】

1. 「4 歳以下には適さない」：スラッシュアイス飲料中のグリセロールに関する新たな事業者向けガイドライン
2. 食料生産動物における殺生物剤及び特定の重金属の使用の結果として生じる AMR リスクのクリティカルレビュー
3. リコール情報

【FSS】

1. 報告書によると、砂糖入り飲料の消費量がスコットランドの最も裕福でない地域で最多であることがわかった

【Gov.ie】

1. Heydon 大臣は政策と戦略の需要に情報を提供する研究提案をもとめる

【BfR】

1. 食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A

【FDA】

1. 低温殺菌オレンジジュースに関する市民請願について意見提供を求める
2. 米国での添加された砂糖の摂取を削減する戦略に関するバーチャル公聴会とリスニングセッションを開催する
3. ダイエタリーサプリメントプログラムは依然として重要な優先事項である
4. ミールキットを購入する際に注意すべき 5 つの注意事項
5. FDA はある種の植物性減量製品中の Nuez de la India と称する有毒なキバナキョウチクトウ (Yellow Oleander) について消費者に警告する
6. 公示
7. 警告文書

【EPA】

1. EPA は 29 の PFAS とリチウムの最初の全国モニタリングデータを発表
【[USDA](#)】
1. USDA の研究が母乳を与えるための栄養ベースラインを設定
【[CPSC](#)】
1. 消費者に、飲み込みハザードがあるため **Iraza** 強力磁石ボールの使用を直ちに止めるよう警告
【[CFIA](#)】
1. リコール情報
【[NRC](#)】
1. 食品安全ニュース：国立研究評議会は新しいシーフード毒素を発見
【[FSANZ](#)】
1. 食品基準ニュース
2. 食品基準通知
【[APVMA](#)】
1. 特定のジメトエート製品の使用停止を提案
【[TGA](#)】
1. ターメリックまたはクルクミンを含む薬・肝障害のリスク
【[MPI](#)】
1. 乳児を保護するための強化製パン粉が本日から義務化される
【[香港政府ニュース](#)】
1. 福島原子力発電所(FNPS)からの処理水排出と食品安全に関して
2. アスパルテーム：安全か？
3. 「オンライン食料品購入と配達 - 食品事業のための食品安全ガイドライン」案
4. 違反情報
【[MFDS](#)】
1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果
2. アレルギー誘発物質未表示輸入食品の摘発・措置
3. 給食安全管理のデジタル転換本格推進、2025年9月から私たちの子供の給食はより健康的で安全になる
4. 機能性表示食品と健康機能食品は異なります
5. このような「58個の海外直輸入食品」の購入に注意してください！
【[SFA](#)】
1. 「未来に食料を与える：すべての人のためのアグリフードハブの構築」を訪れる 3 つの理由
【[その他](#)】
- ・ 食品安全関係情報（食品安全委員会）から

-
- 世界保健機関（WHO : World Health Organization） <https://www.who.int/>

1. 行動ガイド発表：スポーツイベントでのより健康的な食品と健康的な食環境

Launch of the action guide: Healthier food and healthier food environments at sports events

24 August 2023

<https://www.who.int/news-room/events/detail/2023/08/24/default-calendar/launch-of-the-action-guide--healthier-food-and-healthier-food-environments-at-sports-events>

2023年8月24日にWHO 栄養・食品安全部門が、新しい行動ガイド「スポーツイベントでのより健康的な食品と健康的な食環境」のウェビナーを開催する。

本文書はカタール公衆衛生省との協力で開発した新しい行動ガイドであり、スポーツイベントの主催者を対象にしている。食品の提供の改善から有害なマーケティングの防止にわたり、スポーツスタジアム内と周辺でのより健康的な食品と健康的な食環境を達成するための5つの行動を提案している。カタールで開催された2022年FIFAワールドカップで、スタジアムで提供された食品の30%がより健康的な栄養プロファイルだった経験を反映している。

* Healthier food and healthier food environments at sports events: an action guide for sports event organizers

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240075436>

2. 鉛暴露：大きな公衆衛生上の懸念、第三版

Exposure to lead: a major public health concern, 3rd edition

16 August 2023

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240078130>

鉛は有毒金属であり、その広範な使用により、世界各地で広範な環境汚染と健康問題を引き起こしている。累積する毒性物質であり、神経系、血液系、消火器系、循環器系、腎臓系など、複数の身体系に影響を及ぼす。子供は鉛の神経毒性に特に脆弱で、比較的低レベルの暴露でも深刻な、場合によっては不可逆的な神経障害を引き起こす可能性がある。

鉛の使用と排出を削減し、特に子供と出産適齢期の女性の環境・職業暴露を削減し続けるためには、さらなる努力が必要である。本書は、意思決定者のために、鉛中毒への介入と具体的行動に関する最新の情報とガイダンスを提供するものである。本書は、鉛に関連した疾病負荷に関する最新情報を盛り込むために更新された。

- ファクトシート：鉛中毒

Lead poisoning

11 August 2023

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/lead-poisoning-and-health>

主な事実

- 鉛への暴露は全身に影響を及ぼす可能性があり、特に幼児及び妊娠可能年齢の女性に有害である。
- 体内の鉛は脳、肝臓、腎臓及び骨に分布する。鉛は歯と骨に貯蔵され、時間とともに蓄積する。ヒトの暴露は通常、血液中の鉛の測定によって評価される。
- 骨中の鉛は妊娠中に血液中に放出され、発育中の胎児への暴露源となる。
- 有害な影響がないことが知られている鉛の暴露レベルはない。
- 鉛暴露は予防可能である。

概要

鉛は、地殻に含まれる天然の有害金属である。その広範な使用は、世界の多くの地域で広範な環境汚染、ヒトの暴露、重大な公衆衛生問題を引き起こしている。環境汚染における重要な鉛の発生源は、鉱業、製錬、製造、リサイクル活動及び幅広い製品での使用で、鉛消費の大部分は、自動車用鉛蓄電池の製造への使用である。しかし、顔料、塗料、はんだ、ステンドグラス、鉛結晶ガラス製品、弾薬、セラミック釉薬、ジュエリー、おもちゃ、伝統的な化粧品及び医薬品などにも使用される。鉛を使用したパイプを介する飲料水には、鉛が含まれている場合がある。幼児は、鉛の毒性作用に対して特に脆弱であり、特に脳と神経系の発達に対して、深刻で永続的な健康への有害影響を受ける可能性がある。鉛はまた、高血圧、心血管障害、腎障害のリスク増加など、成人に長期的な害をもたらす。妊娠女性が高濃度の鉛にさらされると、流産、死産、早産、低体重児出産の原因になる。

暴露源及び暴露経路

ヒトは、職業及び環境から鉛に暴露されることがあり、主に次の原因がある。

- 例えば、製錬、リサイクル、鉛入り塗料及び鉛入りプラスチックケーブルの剥離、及び鉛入り航空燃料の使用中に、鉛を含む材料の燃焼により発生する鉛粒子の吸入；及び
- 鉛に汚染された粉塵、水(有鉛パイプから)及び食物(鉛の釉薬又は鉛はんだ付け容器から)の摂取及び手から口に触れる行動からの摂取。

幼児はある供給源から摂取した鉛を大人の4~5倍吸収するため、鉛中毒に特に脆弱である。さらに、子供の生来の好奇心や、年齢相応の手から口への行動により、汚染された土壌や腐敗した鉛塗料の粉塵および破片など、鉛を含む物体を口にしたり飲み込んだりする。一部の国では、電池のリサイクルや採掘によって鉛に汚染された土壌や粉塵への暴露が、幼児の大量鉛中毒と複数の死亡を引き起こしている。

鉛はいったん体内に入ると、脳、腎臓、肝臓、骨などの臓器に分布する。体は鉛を歯や骨に貯蔵し、蓄積する。骨に貯蔵された鉛は妊娠中に血液中に放出されることがあるため、成長中の胎児に影響を及ぼす。カルシウムや鉄などの他の栄養素が不足すると、体がより多くの鉛を吸収するため、栄養不足の子供は鉛の影響を受けやすい。神経系が発達する時期は特に影響を受けやすく、子供が最もリスクが高い。

小児の健康影響

鉛暴露は小児の健康に重大な影響を及ぼす可能性がある。鉛への高いレベルの暴露では、

脳及び中枢神経系が重度の損傷を受け、昏睡、痙攣、死に至ることさえある。明らかな症状を引き起こさない低レベルの暴露では、特に、鉛は小児の脳の発達に影響を及ぼし、知能指数(IQ)の低下、注意持続時間の短縮や反社会的行動の増加などの行動変化及び教育到達度の低下をもたらす。鉛暴露はまた、貧血、高血圧、腎障害、免疫毒性及び生殖毒性を引き起こす。安全な血中鉛濃度はわかっておらず、3.5 µg/dL という低い血中鉛濃度でも、小児の知能低下、行動障害、学習障害と関連する可能性がある。

WHO の対応

WHO は、労働者、子供、妊娠可能年齢の女性の健康を保護するために加盟国による行動が必要な公衆衛生上の主要な懸念である 10 種類の化学物質の一つとして鉛を同定した。WHO は、鉛暴露の臨床管理に関するガイドラインを作成し、血中鉛濃度が 5 µg/dL 以上の個人は鉛暴露の原因を特定し、暴露を減らし、終了させるための適切な措置を推奨している。

鉛入りガソリンの段階的廃止や他の鉛対策により、多くの国で住民の血中鉛濃度が低下した。しかし、2023 年 3 月現在、鉛塗料の規制がある国はわずか 48% である。WHO は国連環境計画と「Global Alliance to Eliminate Lead Paint (鉛塗料廃絶のための同盟)」を結成し、すべての国が塗料中の鉛の使用を規制する法律を持つよう奨励している。

WHO は現在、鉛暴露の予防に関するエビデンスに基づいたガイダンスを提供している。

3. 出版物

WHO 世界の水と衛生：年次報告書 2022

WHO Global water, sanitation and hygiene: Annual report 2022

22 August 2023

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240076297>

本報告書は、2022 年における世界保健機関 (WHO) の水と衛生 (WASH) に関する世界的な活動をまとめたものである。本報告書では、WHO 2018-2025 年戦略で詳述されているように、WHO にとって不可欠な WASH プログラムをどのように継続的に実施したかが述べられている。これには、WHO/ユニセフ合同給水・衛生モニタリングプログラム (JMP) や UN-Water (国連水関連機関調整委員会) 衛生・飲料水グローバル分析及び評価 (GLAAS) を通じて、WASH へのアクセスと WASH システムをモニタリングする作業の公表と普及、飲料水と衛生に関する規範の継続的な開発と実施、手指衛生を含む全体的な支援活動などが含まれる。WHO のすべての活動は、強力なパートナーシップによって向上した。

-
- 国連食糧農業機関 (FAO : Food and Agriculture Organization of the United Nations)
<https://www.fao.org/home/en>

1. 世界的食品安全緊急対応ネットワークが 2020-2021 年の活動を報告

Global food safety emergency response network reports 2020-2021 activities

23/08/2023

<https://www.fao.org/food-safety/news/news-details/en/c/1649093/>

INFOSAN 活動報告書 2020–2021 年

INFOSAN Activity report, 2020–2021

<https://www.fao.org/documents/card/en/c/cc7238en%20>

FAO と WHO は、新たに発表された 2020-2021 年の 2 年間の国際食品安全機関ネットワーク (INFOSAN) 活動報告書の中で、食品安全インシデントが過去最多数記録されたと指摘した。期間中、INFOSAN 事務局は、2018-2019 年の 162 件の約 2 倍となる 375 件の国際食品安全事象に対応し、このネットワークが 2004 年に設立されて以降最多となった。INFOSAN 事務局はこれらのイベント中に、自国への、また自国からの関係する製品の流通の詳細など、コミュニケーション、メンバーの結びつき、必須情報の入手手段の確保を促進した。事務局が提供した支援も、通知されたアウトブレイクの発生源を当局が特定するのに役立った。信頼できるタイムリーな情報を得ると、貿易を通して汚染された食品がさらに流通するのを防ぎ、リコールを活発にすることによって、食中毒の発生率を軽減する各国の立場をより良くすることができる。

この報告書は、国際緊急対応活動が増加する潜在的な理由として、食品安全リスクの認識の高まり、食品安全問題の報告の改善、パートナーとの協力の強化、加盟国レベルまたは INFOSAN 事務局での能力の強化などをあげている。

概して、INFOSAN 事務局は 2020-2021 年の 2 年間のあいだに国際的に懸念される 375 の事象に関与した (付属書 A 及び B 参照)。生物的ハザード 212 件、非表示のアレルゲン 65 件、物理的ハザード 47 件、化学的ハザード 42 件、特定されていないハザード 9 件だった。

非表示のアレルゲンハザードに関しては、最多頻出は牛乳に関する事象(21)で、その他の非表示のアレルゲンインシデントは、ピーナッツ(10)、ダイズ(9)、卵(8)、グルテン(3)、マスタード(3)、カシューナッツ(2)、ヘーゼルナッツ(2)、ピスタチオ(2)、ゴマ(2)、貝類(2)、小麦(2)、アーモンド(1)、ラクトース(1)、クルミ(1)だった。化学的ハザードに関しては、最多頻出はヒスタミンに関する事象(19)で、食品安全事象の原因となったその他の化学的ハザードは、メタノール(7)、エチレンオキシド(2)、パツリン(2)、アクリルアミド(1)、アミグダリン(1)、クレンブテロール(1)、クロルピリホス(1)、抽出可能なシアン化物(1)、ヒアルロン酸(1)、過酸化水素(1)、マラカイトグリーン(1)、フィトヘマグルチニン(1)、ピロリジジンアルカロイド(1)で、特定されない化学物質事象が 1 件だった。

2. Codex

- 私たちの役割は、執行委員会の中で最も重要なもののひとつである

Our role is one of the most important ones in the Executive Committee

18/08/2023

<https://www.fao.org/fao-who-codexalimentarius/news-and-events/news-details/en/c/1648851/>

コーデックスの新しいポッドキャストでは、David Massey 氏が 6 人のコーデックス地域コーディネーター全員と、意思決定レベルでコーデックス加盟国の代表を確保する役割の重要性について話している。このポッドキャストは、7 月 10 日から 14 日までジュネーブで開催されたコーデックス委員会執行委員会（CCEXEC）の会議で収録されたもので、新しいコーデックス戦略計画（2026-2031）の枠組みを確立するための初期計画が話し合われた。Massey はゲストに、コーデックスにおける地域の声の価値をどう考えるか尋ねている。

コーデックス委員会設立 60 周年にちなんで、Massey 氏はコーディネーターたちに、コーデックスの未来に地域が何をもちとらすことができるかを考えるよう求めた。回答は、国際規格の策定を支援するためのデータ提供の拡大から、各国におけるコーデックス規格の革新と適用の拡大まで、多岐にわたった。

● 欧州委員会（EC : Food Safety: from the Farm to the Fork）

https://ec.europa.eu/food/safety_en

1. 概要レポート：EU における食用の活二枚貝の生産と採捕に関する公的管理

Overview report - Official controls on the production and harvesting of live bivalve molluscs for human consumption in the European Union

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/overview/details/153>

本報告書は、EU 加盟国における食用の活二枚貝の生産と採捕に関する各国の管理システムの主要要素と、それらが直面している主要課題について記述したものである。欧州委員会は、二枚貝を生産している 15 加盟国から、4 回の査察と 11 の質問票への回答を通じて情報を収集し、公開されているその他の公式情報を補足した。EU では、4 加盟国（フランス、スペイン、イタリア、ギリシャ）が生産の 80%以上を占め、大部分が養殖である。二枚貝のうち生産量が多いのは順にイガイ（約 60%）、アサリ、カキ、ホタテである。

二枚貝が消費者に与えるリスクを低減・軽減するためには、二枚貝を生産・収穫する産地の管理が不可欠である。EU 法では、これらの管理は管轄当局の責任であり、当局は包括的な公的管理を行う義務がある。

本報告書では、すべての生産加盟国の所轄官庁が、程度の差こそあれ、二枚貝の公的管理システムを構築してきたと結論づけているが、これらのシステムは必ずしも EU 法の目的に合致しているわけではなく、従って、消費者の健康を守るには必ずしも十分ではない。

2. 査察報告書

● ラトビアー生きた動物と動物製品中の残留物と汚染物質の管理

Latvia 2022-7487—Control of residues and contaminants in live animals and animal products

08-08-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4645>

2022年11月15～25日に実施した、ラトビアの生きた動物と動物製品中の動物用医薬品、農薬及び汚染物質の残留物の監視を評価するための査察結果。ラトビアの残留管理プログラムの計画はタイムリーで範囲は広く、サンプリングは計画通りで、違反結果は迅速にフォローアップされている。だが、計画に関連するリスク要因が考慮されていないなど、いくつかの要因に弱められている。試験所の実績は、肯定的な側面もあるものの、方法の妥当性確認に欠点があり、結果や公的管理システムの有効性への信頼が弱められている。

- **エストニア—EUに入る動物と商品に関する公的管理及び国境管理所のEU要件順守の検証**

Estonia 2023-7782—Official controls on animals and goods entering the European Union and verification of compliance of border control posts with European Union requirements

08-08-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4644>

2023年4月17日～5月5日まで実施した、エストニアのEU輸出用動物と商品の公的管理システムと国境管理所(BCPs)のEU要件への順守を検証した査察結果。エストニアのBCPsを通してEUに入る動物や非動物由来商品には、十分機能する公的管理システムが設定されており、適切な資格や経験のある職員、情報技術システム、協力とコミュニケーションに支えられている。監査チームが確認した欠点は少なく、管轄機関は査察中や直後にそれらの欠点に対処するための対策を講じたため、エストニアの管轄機関への助言はない。

- **リトアニア—EUに入る動物と商品に関する公的管理及び国境管理所のEU要件順守の検証**

Lithuania 2023-7783—Official controls on animals and goods entering the European Union and verification of compliance of border control posts with European Union requirements

08-08-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4643>

2023年2月20日～3月10日まで実施した、リトアニアのEU輸出用動物と商品の、公的管理システムや国境管理所(BCPs)のEU要件への順守を検証した査察結果。BCPsを通してEUに入る動物と商品などには包括的な公的管理システムがあり、情報技術システムや文書化手順に支えられて十分教育を受けた職員が計画された協定に従って管理している。確認された欠点は少なく、すでに大部分に迅速な対策が講じられている。公的管理システムの効果や全体的なEU法順守に関して十分な保証を提供している。

- **日本—水産物—リモート評価**

Japan 2022-7470—Fishery products - remote assessment

04-08-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4641>

EU 輸出用水産物が EU 要件に従っていることを保証・公式認定する日本の能力を検証するために実施された机上評価の結果。提供された情報の評価から、日本は健全な法的枠組み、強固な管轄機関構造、法的権限を利用していることが立証された。にもかかわらず、特に、2 つの管轄機関のコミュニケーション/調整上の問題、公的管理検査や水産物に関する試験所の認定が部分的、マグロが主な輸出品の 1 つなのにヒスタミン検査に EU 参照法でない方法を使用していることなど、いくつかの欠点も確認された。

- **管理団体—インドから EU への輸出品を認証するためのオーガニック生産基準と管理対策**

Control Body 2023-7858—Control Body - organic production standards and control measures for certifying exports from India to the EU

31-07-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4640>

2023 年 2 月 27 日～3 月 16 日に実施した、インドの管理団体が適用するオーガニック生産基準と管理対策の評価結果。管理団体には包括的な管理システムが設定されているが、オーガニック加工時に検査はあまり行われず、「抜き打ち」検査が全て事前に通知されているなど、管理にはいくつかの欠点がある。全体的には良好な水準で、エチレンオキシドと農薬に関する EU の懸念に包括的な方針で対応し、基準を強化するために厳しい対策を講じ、適切に順守しない事業者を一時停止し、リストから削除している。

- **リトアニア—動物の副産物(ABP)及び派生製品(DP)の公的管理**

Lithuania 2023-7710—Official controls on animal by-products (ABP) and derived products (DP)

08-08-2023

<https://ec.europa.eu/food/audits-analysis/audit-report/details/4642>

2023 年 5 月 22 日～6 月 1 日まで実施した、動物の副産物(ABP)と派生製品(DP)のチェーンに沿った順守を確実に検証し、違反発見時の管轄機関の能力を評価するためのリトアニアの査察結果。概して、ABP と DP のチェーンに沿って活動する事業者の包括的な登録や承認に支えられた機能的な公的管理システムがある。2～3 の例外はあるが、ABP と DP の活動は生産チェーンに沿ってトレーサビリティを強化する適切な商業用文書がある。食品施設での ABP の公的管理は、一部の ABP の正しい分類や廃棄に関する管理や、屠殺場での除去後特定されたリスク物質の表示以外はほぼ効果的である。

3. 食品及び飼料に関する緊急警告システム (RASFF)

RASFF - food and feed safety alerts

https://food.ec.europa.eu/safety/rasff-food-and-feed-safety-alerts_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

8/13/2023～8/26/2023 の主な通知内容 (ポータルデータベースから抽出)

* 基本的に数値の記載がある事例は基準値超過 (例外あり)

* RASFF へ報告されている事例のうち残留農薬、食品添加物、食品容器、新規食品、カビ毒を含む天然汚染物質の基準違反等について抜粋

警報通知 (Alert Notifications)

韓国産オランダ経由乾燥海藻のヨウ素高含有、中国産オランダ経由乾燥海藻のヨウ素高含有、英国産ホタテ貝の記憶喪失性貝毒ドウモイ酸、トルコ産コーヒー・茶製品のシブトラミン、ガーナ産パイナップルのエテホン、フランス産飼料用小麦のクロルピリホスメチル、ポーランド産乾燥ホウレン草のカドミウム、イタリア産デザート用米のカドミウム、原産国不明ドイツ経由ヒマワリ種子のオクラトキシン A、ギリシャ産ブルガリア経由アプリコットカーネルのシアン化物高含有、フランス産飼料用ヒマワリ種子のシペルメトリン、サバフィレのヒスタミン、フィリピン産ウェハースの未承認添加物、中国産フードサプリメントの未承認物質バルデナフィル、スロベニア産クッキーのテトラヒドロカンナビノール(THC)、デンマーク産リンゴジュースのパツリン、ドイツ産各種フードサプリメントの未承認新規食品成分 5-HTP/グリフォニア抽出物・N-アセチル-L-チロシン・N-アセチル-L-カルニチン塩酸塩及びカフェイン高含有、スペイン産米油の 3-MCPD 及びグリシジルエステル類、トルコ産ミネラルウォーターのヒ素高含有、ナイジェリア産オランダ経由キャッサバ粉のシアン化物、スペイン産有機オリーブオイルのミネラルオイル成分 (MOSH 及び MOAH)、など。

注意喚起情報 (information for attention)

スペイン産チルドキハダマグロのヒスタミン、イタリア産ベビーキャロットのクロルピリホス、ウクライナ産オートミールクッキーのアクリルアミド高含有、南アフリカ産フードサプリメントのシネフリン高含有、タイ産ロンコンのオメトエート、サンマリノ産事前の認可なく食品に使用できないサプリメント成分としての新規食品「1- α グリセリルホスホリルコリン」、トルコ産サクランボのジメトエート・オメトエート及びクロルピリホス、チリ産イガイのカドミウム、タイ産パッションフルーツのシペルメトリン、中国産冷凍ササゲのクロルフェナピル及びイソカルボホス、インド産ターメリックのアフラトキシン、ケニア産オランダ経由スナックエンドウのクロロタロニル、ベトナム産カレー粉の未承認着色料スーダン 4、モロッコ産スイカのエキサミル及びオキサミル、エクアドル産皮むきエビの尻尾の亜

硫酸塩、中国産ホームセンターなどの皿からのホルムアルデヒドとメラミンの不安定な溶出、アルゼンチン産ピーナッツのアフラトキシン、英国産エネルギードリンクのカフェイン高含有、ポーランド産フードサプリメントの医薬品成分(バレリアンの根抽出物)、トルコ産生鮮サクランボのジメトエート及びオメトエート、など。

通関拒否通知 (Border Rejections)

ウクライナ産ブドウワインのキャプタン、セルビア産紙ストローのイソチアゾリノン、英国産未承認新規食品フェヌグreekの葉 (*Trigonella foenum graecum*)、エジプト産グリーンオリーブのクロルピリホス及びイマザリル、トルコ産ブドウの葉のジチオカルバメート、米国産菓子類とペストリーの二酸化チタン、インド産食品調製品の未承認新規食品テパリービーン (*Phaseolus aconitifolius*)、インドネシア産ナツメグのアフラトキシン、パキスタン産バスマティ米のアセタミプリド及びイミダクロプリド、トルコ産乾燥イチジクのアフラトキシン、トルコ産ペッパーのアセタミプリド、インド産クミン種子のクロルピリホス及びエチレンオキシド、インド産アーユルベータハーブサプリメントのエチレンオキシド(複数あり)、米国産野生動物飼料用ピーナッツのアフラトキシン、中国産ハーブ抽出液のピロリジジンアルカロイド、ブラジル産鳥エサ用ピーナッツのアフラトキシン B1、中国産 PTFE コーティングされたオープン皿のグローバル溶出テスト中の変質、パキスタン産米のクロルピリホス、エジプト産冷凍角切りペッパーのファモキサドン及びプロパルギット、タイ産鶏肉調理品の塩素酸塩(複数あり)、オーストラリア産アーモンドのアフラトキシン、中国産食品接触物質の法定限度を超えたホルムアルデヒド、インド産ワサビノキ (*Moringa oleifera*) の未承認物質モノクロトホス(複数あり)、ウガンダ産トウガラシのラムダ-シハロトリン、ウガンダ産トウガラシのシペルメトリン、米国産ピーナッツのアフラトキシン、ウクライナ産冷凍ラズベリーのプロパルギット、ケニア産有機粉末コーヒーのオクラトキシン A 高含有、など。

-
- 欧州食品安全機関 (EFSA : European Food Safety Authority)

<https://www.efsa.europa.eu/en>

1. 農薬関連

- 小麦及びライ麦のジフェノコナゾールの既存 MRLs 改訂

Modification of the existing maximum residue levels for difenoconazole in wheat and rye
EFSA Journal 2023;21(8):8207 14 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8207>

(理由付き科学的意見)

- ホルペットの農薬リスク評価ピアレビュー

Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance folpet

EFSA Journal 2023;21(8):8139 18 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8139>

(農薬の結論)

情報不足と懸念が確認された。

- リーキとハチミツのメタザクロルの既存 MRLs 改訂

Modification of the existing maximum residue levels for metazachlor in leeks and honey

EFSA Journal 2023;21(8):8220 21 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8220>

(理由付き科学的意見)

- メトコナゾールの農薬リスク評価ピアレビュー

Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance metconazole

EFSA Journal 2023;21(8):8141 24 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8141>

(農薬の結論)

情報不足と懸念が確認された。

- 生食用ブドウ、ニンニク、ハチミツのピリメタニルの既存 MRLs 改訂

Modification of the existing maximum residue levels for pyrimethanil in table grapes, garlic and honey

EFSA Journal 2023;21(8):8195 23 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8195>

(理由付き科学的意見)

- メトリブジンの農薬リスク評価ピアレビュー

Peer review of the pesticide risk assessment of the active substance metribuzin

EFSA Journal 2023;21(8):8140 24 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8140>

(農薬の結論)

2. 飼料添加物関連

以下全て科学的意見

- Assessment of the feed additive consisting of alpha - galactosidase produced by *Saccharomyces cerevisiae* CBS 615.94 and endo - 1,4 - beta - glucanase produced by *Aspergillus niger* CBS 120604 (Agal - Pro BL/BL - L®) for use in chickens for fattening, minor poultry species for fattening and chickens reared for laying for the

renewal of its authorisation (Kerry Ingredients & Flavours Ltd.)

EFSA Journal 2023;21(8):8175 14 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8175>

- Assessment of the application for modification of the terms of the authorisation of the feed additive consisting of *Bacillus subtilis* DSM 32324, *Bacillus subtilis* DSM 32325 and *Bacillus amyloliquefaciens* DSM 25840 (GalliPro® Fit) for all poultry species for fattening and reared for laying/breeding (Chr. Hansen A/S)

EFSA Journal 2023;21(8):8179 14 August 2023

<https://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/8179>

-
- 英国 食品基準庁 (FSA : Food Standards Agency) <https://www.food.gov.uk/>

1. 「4歳以下には適さない」: スラッシュアイス飲料中のグリセロールに関する新たな事業者向けガイドライン

‘Not suitable for under-4s’: New industry guidance issued on glycerol in slush-ice drinks

10 August 2023

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/news/not-suitable-for-under-4s-new-industry-guidance-issued-on-glycerol-in-slush-ice-drinks>

FSA はスラッシュアイス飲料中のグリセロールに関する新たな自主的事業者向けガイダンスを発表し、4歳および4歳未満の子供に販売しないよう助言した。また、幼い子供達が過剰量のグリセロールに暴露されるのを避けるために、10歳以下に無料の詰め替えキャンペーンをしないよう小売店に伝えるよう製造業者に助言している。

FSA のリスク評価から、この年齢未満の子供達はグリセロールに暴露されることで頭痛や病気になる可能性があることが明らかになり、この更新ガイダンスはそれに従っている。また FSA は、グリセロール中毒で子供が入院したスコットランドの 2 つの事例 (2021 年と 2022 年に 1 件ずつ) を把握している。グリセロール中毒は、暴露量が非常に多い場合に (通常、子供が短時間に複数の製品を飲んだ場合)、ショック、低血糖、意識喪失を起こす可能性がある。

FSA の添加物責任者である Adam Hardgrave 氏は次のように述べた: 「グリセロール中毒の症状は通常は軽度だが、両親は特に多量に摂取した場合のリスクを認識することが重要である。両親が、吐き気や頭痛は他の要因によると考えるため、グリセロール中毒は過小報告されている可能性がある。FSA は、グリセロールの濃度を低減するための対策をすでに講じ、我々の新しいガイドラインを導入する意向を示している製造業者に感謝している。」

スラッシュアイス飲料には、スラッシュの効果を作り出すために、砂糖の代替品としてグリセロールが含まれる可能性がある。FSA の新しいガイダンスは、この効果を達成するた

めに技術的に必要な最小量のグリセロールのみを添加するよう事業者に依頼している。グリセロールは他の食品にも含まれているが、スラッシュアイス飲料よりも遙かに少ない量で添加されている。

FSA のリスク評価は、使用される最大量のグリセロール (50,000 mg/L) を含むスラッシュ飲料 350 ml を子供が摂取するという最悪ケースの暴露シナリオを検討し、有害影響が生じる可能性のある閾値と比較した。4 歳又は 4 歳未満の子供は、この閾値を超過するようである。4 歳より上の子供達はスラッシュ飲料 1 杯を飲んでも悪影響を受ける可能性はありそうにない。これは、グリセロールの影響が体重に関連しているためである。FSA のリスク評価や助言は、様々な年齢の子供の平均体重を考慮した。将来、事業者が使用するグリセロールの最大量が減少したら、この新しい事業者向けガイドラインは再評価される可能性がある。FSA は、このガイドラインがどのくらい広く採用されるかを監視し、将来更なる措置を取る可能性がある。

● スラッシュアイス飲料中のグリセロールに関する新たな事業者向けガイドライン

New industry guidance issued on glycerol in slush-ice drinks

10 August 2023

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/new-industry-guidance-issued-on-glycerol-in-slush-ice-drinks>

スコットランド食品基準庁 (FSS) と英国食品基準庁 (FSA) は、スラッシュアイスドリンクに含まれるグリセロールに関する新たな事業者向け自主的ガイドラインを発行した。

* ガイダンス

<https://www.foodstandards.gov.scot/publications-and-research/publications/industry-guidelines-for-the-food-additive-glycerol-e-422-in-slush-ice-drinks>

* 関連記事：食品安全情報 (化学物質) No. 13/ 2023 (2023. 06. 21)

【FSS】スラッシュアイス飲料中のグリセロール

<https://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2023/foodinfo202313c.pdf>

2. 食料生産動物における殺生物剤及び特定の重金属の使用の結果として生じる AMR リスクのクリティカルレビュー

Critical review of AMR risks arising as a consequence of using biocides and certain heavy metals in food animal production

21 August 2023

<https://www.food.gov.uk/research/critical-review-of-amr-risks-arising-as-a-consequence-of-using-biocides-and-certain-heavy-metals-in-food-animal-production-lay>

本レビューでは「食料生産動物に使用される殺生物剤及び/又は重金属は、フードチェーンにおける薬剤耐性 (AMR) の発生に影響を与えるか」を問う。

食用動物生産からの殺生物剤（特に消毒剤）及び/又は重金属のような化学物質の放出が、消費者が獲得する可能性のある AMR（細菌又は遺伝子として）の選択、出現、拡散に寄与する可能性があり、その結果として消費者に潜在的なリスクをもたらす可能性があるという根拠が公表されていると結論づける。公表されているエビデンスは僅かで、（本報告書に詳述されているように）重大な知識のギャップがある。現在のところ、リスクを包括的かつ定量的に評価するためのデータは不十分であり、こうした知識のギャップを埋め、実際のリスクがあるかどうかを確認するためには、（本報告書に詳述されているような）現場での集中的な研究を実施する必要がある。

3. リコール情報

- **Rude Health Foods は Rude Health 低糖グラノーラ-アーモンドとヘーゼルナッツに小さな石が含まれている可能性があるため、リコールする**

Rude Health Foods recalls Rude Health Low Sugar Granola - Almond and Hazelnut as it may contain small stones

11 August 2023

<https://www.food.gov.uk/news-alerts/alert/fsa-prin-26-2023>

Rude Health Foods は Rude Health 低糖グラノーラ-アーモンドとヘーゼルナッツに含まれる小さな石により、窒息の危険と嘔吐と害を及ぼす可能性があるため、リコールする。

-
- **FS スコットランド（FSS : Food Standards Scotland）**

<https://www.foodstandards.gov.scot/>

1. 報告書によると、砂糖入り飲料の消費量がスコットランドの最も裕福でない地域で最多であることがわかった

Report finds consumption of sugary drinks highest in Scotland's least affluent areas

8 AUGUST 2023

<https://www.foodstandards.gov.scot/news-and-alerts/report-finds-consumption-of-sugary-drinks-highest-in-scotlands-less-affluent-areas>

スコットランド食品基準庁（FSS）の新たな分析によると、スコットランドの最も裕福でない地域に住む人々は、国の他の地域と比較してほぼ2倍の砂糖入り飲料を消費している。

* Consumption of discretionary foods and drinks and other categories of dietary concern in adults (16+ years)

<https://www.foodstandards.gov.scot/publications-and-research/publications/consumption-of-discretionary-foods-and-drinks-and-other-categories-of-dietary-concern-in-adults-16-yr>

本報告書は、販売促進の制限に関する政策提案において検討されている裁量的食品及

び追加カテゴリーの消費に関する最新情報を提供する。スコットランドの成人（16歳以上）3,042人を対象にした2021年のスコットランド健康調査のデータを解析。スコットランドの食事は特に飽和脂肪と遊離の糖類が多すぎる。

-
- アイルランド政府（gov.ie : Government of Ireland） <https://www.gov.ie/en/>

1. Heydon 大臣は政策と戦略の需要に情報を提供する研究提案をもとめる

Minister Heydon launches a call for research proposals to inform policy and strategic needs

14 August 2023

<https://www.gov.ie/en/press-release/c355c-minister-heydon-launches-a-call-for-research-proposals-to-inform-policy-and-strategic-needs/>

農業食料海洋省の Martin Heydon 国務大臣（研究・イノベーション担当）は本日、2023年政策および戦略研究公募（PSSRC）の開始を発表した。PSSRC は、同省のエビデンスと知識基盤を拡大するための研究を支援するために、2022年に初めて発足し、省の機能と、より広範な農業食品、森林、バイオベース部門に関連する政策、戦略、規制の開発を支えるものである。13のトピックが同定され、公募された。

- **2023 政策および戦略研究募集**

2023 Policy and Strategic Studies Call

14 August 2023

<https://www.gov.ie/en/publication/b2714-2023-policy-and-strategic-studies-call/>

13のトピックは以下のとおり：

- 残留農薬国家管理計画のもとでのアイルランド市場にある植物性食品のサンプリングを最適化するためのリスクに基づいた定量的アプローチとプラットフォームの開発。
- 国の BVD（牛ウイルス性下痢）根絶計画の家畜の健康と福祉と生産性への影響評価。
- トリインフルエンザのリスクに基づいたサーベイランスを支援するための時空予測ツールの開発。
- 世界動物疾病負担プロジェクトの方法論を使ったアイルランドの豚部門の動物の健康ロス推定。
- 犬に噛まれることの影響調査とヒトや羊での害を減らすための政策ツール。
- 抗菌剤耐性の駆動要因となる可能性のある要因の空間的多様性。
- 農家が bTB が自分の群れに入って拡大することを防ぐための最良のバイオセキュリティ対策を採用することを妨げる行動・信念・経済及びその他の関連要因の検討。
- 後に TB フリー状態を失った群れから供給されたミルクで作った未殺菌チーズの定量的及び定量的リスク評価。

- 農場のパフォーマンスにおける年齢と性の役割—女性や若い農家がより革新的でより良い環境や経済的成果を上げる可能性が高いかどうか検討する。
- アイルランドの作物生産部門への侵入性植物病害の経済的影響を点数付けする枠組みの開発。
- 牧場ベースの生産システムにおける GHG、窒素、リン削減対策のメタ解析とまとめ、および政策決定者への提言。
- 持続可能なフードシステム：アイルランドの組織相互関係マッピング。
- 広葉樹種子種戦略。

- ドイツ連邦リスクアセスメント研究所 (BfR : Bundesinstitut für Risikobewertung)
<https://www.bfr.bund.de/en/home.html>

1. 食品中のミネラルオイル成分に関する Q&A

Questions and answers on mineral oil components in food

31 July 2023

<https://www.bfr.bund.de/cm/349/questions-and-answers-on-mineral-oil-components-in-food.pdf>

*参考

食品安全情報 (化学物質) No. 16/ 2018 (2018. 08. 01)

【BfR】食品中のミネラルオイル成分についての Q&A

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2018/foodinfo201816c.pdf>

<以下、上記 Q&A から更新された質問や回答について>

ミネラルオイルの成分は、さまざまな方法で食品に入る。一方では、例えば、承認された食品添加物、包装材製造のための添加物、または食品の加工中に、食品への移行が予想される。他方では、環境汚染、農業機械、不適切な輸送または加工方法及びフードチェーンに沿った蓄積もあり得る。BfR は、再生ボール紙の箱から食品へのミネラルオイル成分の移行が可能であり、この点を長年指摘してきた。以下に、BfR は、包装材から食品に移行する可能性のあるミネラルオイル成分に関するよくある質問と回答をまとめた。

ミネラルオイルの成分はどうやって食品に入るのか?

一方では、ミネラルオイルの成分が食品に混入することは予測できる。ある種のワックスまたはいわゆるホワイトオイルは、食品添加物として、食品接触物質の製造または食品の加工で使用される。とりわけ接着剤やプラスチック中、金属缶の製造用、小麦粉塵を防止、チーゾコーティング、または型から生地及び他の成形製品の剥離をよくするために使用される。使用されるミネラルオイル製品は、通常、欧州の法律に従ってそれぞれの用途に使用できる物質である。

他方、食品中のミネラルオイルは、例えば、汚染された土壌からの環境への流入、農業機械または不適切な貯蔵条件、包装材、またはフードチェーンを介した汚染物質、特に動物の飼料からの汚染物質のキャリーオーバーを介して、食品の製造中に汚染された結果である可能性もある。

包装材の場合、いわゆる「バッチングオイル」と印刷インク成分が汚染物質として考慮される。バッチングオイルは、食品の輸送と保管のためのジュートまたはサイザル袋の製造によく使用される。印刷インクは、再生繊維で製造された紙の包装材によるものである。印刷された新聞紙は、段ボールの製造に使用される再生紙でもある。従来使用されている新聞紙のインクのほとんどはミネラルオイルを含んでいる。目下のところ、インクを再生工程で十分に除去することが不可能で、再生ボール紙で作られた食品包装材になる。「バッチングオイル」と印刷インクからのミネラルオイルの両方が、比較的高濃度の芳香族炭化水素を含むことがよくある。しかし、適切な品質の再生紙を選択し、紙の包装と食品の間のいわゆる機能的バリア(例えば分離層)を使用することによって、近年、食品に入る再生紙の量を大幅に削減することが可能になった。

食品分野での「ミネラルオイル」という言葉の意味は?

食品中に検出されるミネラルオイル混合物は、飽和炭化水素(ミネラルオイル飽和炭化水素、MOSH)と芳香族炭化水素(ミネラルオイル芳香族炭化水素、MOAH)の複雑な混合物で構成されている。これらの化合物は通常、10 から 50 の炭素原子を含んでいる。

化学的な観点からは、MOSH は、炭素と水素のみから構成され、二重結合(飽和化合物)を含まない、分岐鎖または直鎖、あるいは(部分的に)環状の分子である。

MOAH は、1 つまたは複数の環構造をもつ芳香族化合物である。また、炭素と水素に加えて硫黄を含むこともある。芳香環には通常、飽和炭化水素の 1 つ以上の短いまたは長い側鎖がある。

包装材によるミネラルオイル成分を含む可能性のある食品は何か、ミネラルオイル成分は包装材からどの食品に移行する可能性があるか?

(更新なし)

包装材から食品に移行するミネラルオイル成分の問題に BfR が注目したのはいつか?

(更新なし)

ミネラルオイルに知られている健康リスクは?

ある鎖長範囲(約 10~45 炭素原子)の飽和炭化水素(MOSH)はヒトの体内に吸収され、肝臓、脾臓、脂肪組織や特定のリンパ節などに検出される可能性もある。ある種の MOSH(約 25~35 個の炭素原子をもつ非分岐鎖)を含むミネラルオイル混合物が、特定のラット(F344 ラット)の肝臓に沈着し炎症作用を引き起こし得ることが動物試験から知られている。欧州食品安全機関(EFSA)は 2023 年 3 月の予備的意見において、ヒト及び動物試験からの新しいデータに基づき、この動物所見はヒトには関連しないと結論している。

(<https://connect.efsa.europa.eu/RM/s/publicconsultation2/a0109000006qqHf/pc0400>)

一方、上記の MOSH 画分は、F344 ラットとは対照的にヒトの肝臓及び脾臓には蓄積せ

ず、記載された毒性学的影響はヒトの組織サンプルでは観察されなかった。非常に高用量な場合を除いて、EFSA はヒトに対する MOSH のいかなる有害影響も同定していない。しかし、データは不完全であり、特に動物における長期試験と、ミネラルオイルの(生涯にわたる)摂取後のヒト臓器における MOSH 濃度に関する更なるデータが欠如している。したがって、EFSA は、外因性物質の蓄積は基本的に望ましくなく、可能性のある(まだ知られていない)毒性学的影響は MOSH の蓄積によって引き起こされる可能性が最も高いため、臓器及び組織における MOSH 蓄積の影響に基づいて健康リスク評価を行っている。

食品中に検出される芳香族炭化水素化合物(MOAH)の画分は、異なる供給源に由来する可能性がある。MOAH は、1 つまたは複数の環からなる芳香環系を有する化合物であり、炭素及び水素に加えて硫黄を含むこともある。芳香環はまた、飽和炭化水素のいくつかの短鎖または長鎖を有することが多い。いくつかの MOAH は変異原性及び発がん性がある。個々の物質の数が多いため、毒性学的データは非常に限られた範囲でしか利用できない。しかし、上記の EFSA 予備的意見書にも記載されている新しいデータは、変異原性及び発がん性物質が 3 つ以上の芳香環を有する MOAH のグループにはほぼ独占的に見出されるという以前の評価の仮説を支持する。したがって、EFSA(2023)は食品中のこのグループの物質の存在に基づいてリスク評価を行った。

2023 年の EFSA の健康リスク評価の結果はどうだったか?

MOSH について、EFSA は、食品を介した欧州連合 (EU) 集団の現在の摂取量は、懸念はないと結論付けている。これは、ミネラルオイルの食品への移行を減らすための近年の当局と業界の取り組みが成功した結果でもある。しかし、EFSA は、毒性学的影響と長期にわたるヒトの臓器や組織における MOSH の蓄積量に関するさらなるデータが必要であると指摘している。

3 つ以上の芳香環を持つ画分には変異原性及び発がん物質が存在する可能性があるため、食品中の MOAH 濃度の評価には、特に重要である。しかし、食品中の MOAH におけるこの画分の実際の割合に関するデータはほとんどない。したがって、EFSA は 2 つのシナリオに取り組み、1 つは現実的な「最悪のケース」を表し、もう 1 つは「最良のケース」である。「最悪のケース」のシナリオでは、すべての集団において健康上の懸念が生じ、「最良のケース」では特に幼児の摂取量の多い集団において懸念が生じた。ここでの EFSA の主なコメントは、食品中に 3 つ以上の芳香環を持つ MOAH の実際の汚染実態に関するより多くのデータが必要であるということだった。加えて、特に 1 つまたは 2 つの芳香環を持つ MOAH の毒性に関するデータが不足している。

MOSH と MOAH は、食品中に存在する可能性のある唯一の石油系炭化水素か?

「ミネラルオイル炭化水素」の定義はやや恣意的である。定義には、蒸留、分解、水素化、抽出などの物理的及び化学的プロセスによりミネラルオイルから得られた炭化水素が含まれる。石炭、天然ガス、バイオマスからの合成物質も含まれる。その他の物質は定義から除外されているが、化学的に非常に類似しており、分析で必ずしも完全に分離または区別できるとは限らない。これは、例えば、植物によって生成される炭化水素（例えば、リンゴや梨

の保護層として)に適用される。ポリオレフィンに由来するオリゴマー、いわゆる POSH(ポリオレフィンオリゴマー飽和炭化水素)または短鎖合成ポリオレフィン、いわゆる PAO(ポリアルファオレフィン)も食品に含まれることがある。これらは、特定のプラスチックで作られた容器から食品に移行することがあり(POSH)、また、例えば、食品の加工における合成潤滑油として使用される(PAO)。

POSH と PAO とは何か?

ポリオレフィン飽和炭化水素オリゴマー(POSH)は、ポリオレフィンとして知られる特定のプラスチック(例えば、ポリエチレン、ポリプロピレン)のオリゴマーとして生じる飽和炭化水素である。この種の素材が食品の包装や保管に使用されると、POSH がこれらの食品へ少量移行する可能性がある。

PAO(ポリアルファオレフィン)は短鎖合成オレフィンであり、例えば、食品加工における溶剤や潤滑油として使用される。PAO は食品中に少量存在することもある。定義上、POSH 及び PAO はミネラルオイル炭化水素ではない。

食品中の POSH と PAO の健康リスクは?

BfR は POSH と PAO に関する毒性学的データを持っていない。したがって、POSH と PAO の決定的な健康リスク評価はこれまでできなかった。しかし、MOSH との化学的類似性に基づいて、POSH と PAO は現在のデータに従って健康リスクをもたらさないと想定できる。

消費者は食品を通してどのくらいの量のミネラルオイル成分を摂取しているか?

2023 年に欧州食品安全機関(EFSA)は、成人の消費者が摂取する飽和炭化水素(MOSH)の量は 9~50 µg/kg 体重/日、芳香族炭化水素(MOAH)は 0.4~13 µg/kg 体重/日であると推定した。小児はその約 2 から 5 倍の量を摂取しており、MOSH では 17~212 µg/kg 体重/日、MOAH では 1~59 µg/kg 体重/日である。

MOSH と MOAH の 1 日摂取量は、2012 年の EFSA の最後の意見書以来、すべての集団でほぼ半減している。

乳幼児の MOSH と MOAH の主な摂取源は、若年集団向けの食品である。これらには、乳児用調製乳とフォローアップ調製乳が含まれるが、乳幼児向けのそのまま喫食可能な食品やビスケットなどの他の製品も含まれる。青年及び成人では、ほぼすべての食品群が MOSH 摂取に寄与しているが、特に穀類、乳製品、油脂類が多く、MOAH 摂取の主要な寄与因子は、穀類、油脂類及びお茶、ココア、コーヒーなどの飲料である。

アドベントカレンダーのチョコレート中のミネラルオイル成分による健康リスクに関する BfR の見解は?

(更新なし)

ミネラルオイル成分はボール紙包装材から冷凍食品にも移行することがある?

(更新なし)

食品中のミネラルオイル成分に制限値は設けられているか?

現在、食品中のミネラルオイル成分の量を規制する法的基準はない。しかし、MOAH に

は変異原性及び発がん性をもつ化合物も含まれる可能性があるため、MOAH は食品中で検出されるべきでない。欧州委員会の植物、動物、食品及び飼料に関する常任委員会(SC PAFF) は、2022 年 4 月にガイドライン (①) を発表し、2022 年 10 月にもガイドライン (②) を発表した。

① <https://ec.europa.eu/transparency/comitologyregister/core/api/integration/ers/281161/081467/1/attachment>

② <https://ec.europa.eu/transparency/comitologyregister/core/api/integration/ers/299917/085826/1/attachment>

ガイドラインでは、「undetectable (検出できない)」という用語の意味と、MOAH が検出された食品への対処方法が定義されている。したがって、すべての食品は、以下の最大基準値を超えて MOAH が検出された場合、市場から排除され、必要に応じてリコールされることになる。

-油脂含有量が低い(4%以下)乾燥食品の場合、0.5 mg/kg

-油脂含有量が高い(4%以上 50%以下)食品の場合、1 mg/kg

-油脂または油脂含有量が 50%を超える食品の場合、2 mg/kg

包装材料からの芳香族炭化水素(MOAH)と飽和炭化水素(MOSH)の食品への移行量に関し BfR が推奨する制限値は？

MOAH の健康影響の指標値の評価及び導出のための毒性学的データは入手できない。リサイクルされた段ボールを介する芳香族炭化水素画分が変異原性及び発がん性を有する可能性があるという BfR の意見は、2023 年の欧州食品安全機関(EFSA 2023)の予備的意見によって確認された。この意見によれば、3 つ以上の芳香環をもつグループの MOAH が変異原性及び発がん性作用の原因である。食品に検出される MOAH が 3 つ以上の芳香環をもつ物質であるかどうか、それがどの程度であるかを、ルーチン分析で示すことはまだ不可能である。したがって、SC PAFF の規定(上記参照)に従って、包装材料から食品への MOAH の検出可能な移行は起こるべきではない。

炭素鎖長が C 10~C 16 及び C 16~C 20 の MOSH を含む溶媒の場合、BfR は食品への移行の指標値として、それぞれ、食品 1 kg 当たり 12 mg 及び 4 mg を導出した。

EFSA は、2022 年のプラスチック食品接触物質製造のための低粘度ワックスの再評価において、食品 1 kg あたり 5 mg の特定移行限度値を勧告した。(EFSA 2022 : <https://efsa.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.2903/j.efsa.2023.7761>)。BfR は評価に関与し、この指標値を支持した。

食品中のミネラルオイル成分の含有量をさらに減らすために、BfR が推奨することは？

紙や段ボールの包装から食品へのミネラルオイル成分の移行は、包装材料中の含有量だけでなく、保存条件や食品の種類によっても影響を受ける。未使用の繊維ベースのボール紙の使用、ミネラルオイルを含まない印刷インクの使用、または包装構造に機能性バリアを組み込むことで移行を防ぐことができる。直接食品と接する包装材料だけでなく、さらに外層の包装材料からの移行の可能性も考慮に入れるべきである。

例えば、農業生産、輸送、食品加工からといった、他の食品への流入源を同定し、可能な限り削減する必要がある。BfR の意見では、例えば推奨されるベンチマークレベルプロジェクトの枠組みの中で、近年行われた最小化の努力は継続されるべきである。

● 米国食品医薬品局（FDA : Food and Drug Administration）<https://www.fda.gov/>

1. 低温殺菌オレンジジュースに関する市民請願について意見提供を求める

FDA Seeks Input on Citizen Petition Regarding Pasteurized Orange Juice

August 15, 2023

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-seeks-input-citizen-petition-regarding-pasteurized-orange-juice>

2022年7月22日にフロリダ柑橘類加工業者協会とフロリダ柑橘類相互組合が提出した市民請願書は、フロリダのオレンジ作物の平均 Brix レベルが「柑橘類緑化」と呼ばれる細菌による病害と厳しい天候のために過去数十年の間に着実に低下しているとして、FDA に Brix レベル、つまり可溶性固形分の最低要件を 10.5%から 10%に引き下げるよう求めている。可溶性固形分の最低レベルを下げると、果汁の甘さと特定の栄養素のレベルが低下する可能性がある。今回の意見提供要請では、最低可溶性固形分含量の低い低温殺菌オレンジジュースの消費者の受容性や栄養価など、いくつかの分野について意見を求めている。FDA は、低温殺菌オレンジジュースの同一性基準を修正すべきかどうかを判断するために情報を求めている。意見は 2023年10月16日までに提出すること。

2. 米国での添加された砂糖の摂取を削減する戦略に関するバーチャル公聴会とリスニングセッションを開催する

FDA to Hold Virtual Public Meeting and Listening Sessions on Strategies to Reduce Added Sugars Consumption in the United States

August 16, 2023

<https://www.fda.gov/food/cfsan-constituent-updates/fda-hold-virtual-public-meeting-and-listening-sessions-strategies-reduce-added-sugars-consumption>

FDA は米国における添加砂糖の摂取を削減するために講じることができる措置や戦略に関する公開会議を 2023年11月6-8日に行う予定である。

3. ダイエタリーサプリメントプログラムは依然として重要な優先事項である

FDA's Dietary Supplements Program Remains a Critical Priority

08/14/2023

<https://www.fda.gov/news-events/fda-voices/fdas-dietary-supplements-program>

[remains-critical-priority](#)

FDAの様々な食品プログラムにおける組織構造を統一したヒト用食品プログラム(HFP: Human Foods Program)とする計画において、FDA長官 Robert M. Califfは、提案された再編の下でのダイエタリーサプリメントプログラムの詳細を共有する。

4. ミールキットを購入する際に注意すべき5つの注意事項

5 Red Flags to Look For When Shopping for Meal Kits

08/16/2023

<https://www.fda.gov/food/buy-store-serve-safe-food/5-red-flags-look-when-shopping-meal-kits>

FDAは、ミールキットについて安全でない食品を示す可能性のあるいくつかの危険信号を含め、最初に箱が玄関に届いたときに何をすべきかについてのヒントをYouTubeで紹介する。5つの危険信号は以下のとおり。

- 買う前に会社の評判や苦情などを調べる。
- 配送ルートを実タイムでチェックできるかどうかやトラックが遠回りや寄り道していないか調べる。
- 荷物は傷などがないか確認する。
- 個々の食品がきちんと包装されていて漏れや破損はないか調べる。
- 温度は適切か調べる。

5. FDAはある種の植物性減量製品中の Nuez de la India と称する有毒なキバナキョウチクトウ(Yellow Oleander)について消費者に警告する

FDA Warns Consumers About Toxic Yellow Oleander Purported to be Nuez de la India in Certain Botanical Weight Loss Products

08/18/2023

<https://www.fda.gov/food/alerts-advisories-safety-information/fda-warns-consumers-about-toxic-yellow-oleander-purported-be-nuez-de-la-india-certain-botanical>

何が問題か？

- FDAとメリーランド州保健局の分析から、Nuez de la Indiaと表示され、「植物性食品」「減量用インドナッツ」「痩身用種子」「減量用インド種子」「食用種子」として販売されているある種の減量製品は、メキシコや中央アメリカ原産の有毒植物で、かなり毒性の強いキバナキョウチクトウと思われると判断した。
- キバナキョウチクトウの摂取は、神経系、消化器系、心血管系への有害健康影響を起す可能性があり、重症で死に至る可能性もある。症状は、吐き気、嘔吐、めまい、下痢、腹痛、心不全、不整脈などである。
- メリーランド州では、Nut Diet MaxブランドのNuez de la Indiaの種子の摂取後に1人入院したことが知られている。

- これらの製品は通常、第三者プラットフォーム(Amazon、Walmart、eBay など)を通してオンラインで販売されている。

調べた製品

- FDA がサンプリングし、キバナキョウチクトウで代替されていると判断した植物性減量製品は：

Nuez de la India (*Aleurites moluccana*)種子

その他の一般名称は、キャンドルナッツ(ククイ)、キャンドルベリー(ヤマモモ)、インドクルミ、クミリ、ワニスツリーなどである。

消費者への助言

- FDA は、キバナキョウチクトウを含む可能性があるため、Nuez de la India、インドナッツ、インド種子 として販売されている Nut Diet Max ブランドや Todorganic Natural ブランドの製品の使用を中止するよう消費者に助言している。キャンドルナッツ種子(無毒)とかなり有毒なキバナキョウチクトウ種子は外見が似ているため、FDA はその他の Nuez de la India、インドナッツ、インド種子製品に対して、顧客に注意を促している。
- FDA は、懸念されるこれらの製品を摂取した消費者に、すぐに医師の診察を受けるよう助言している。これらの製品を最近使用していない場合でも、適切な評価が行われる可能性があるため、消費者はなお、摂取した製品について医師に知らせるほうがよい。
- あなたや世話をしている人がこれらの製品の重篤な副作用がある場合、9-1-1 に電話するか、直ちに救急医療を受けること。
- あなたや世話をしている人が、最近これらの製品やその他の植物性減量製品を摂取し、健康上の懸念がある場合は、医師の診察を受けること。
- 消費者が州の中毒管理センターに連絡することもできる。

この問題の概要と範囲

最近、メリーランド州保健局(MDH)は、同州で1人が Nuez de la India 製品を摂取し入院したことが報告された後、Nuez de la India と表示された減量製品のサンプリングと検査を開始した。Nuez de la India はインドナッツや種子として販売されており、通常、花の咲く木ククイ(*Aleurites moluccanus*)の木の実、あるいは一般的に、キャンドルナッツ、キャンドルベリー、インドクルミ、クミリ、ワニスツリーとして知られている木の実だと思われる。MDH と FDA によるさらなる分析から、Nut Diet Max と Todorganic 製品にはキバナキョウチクトウと一致する強心配糖体やその他の特徴が含まれており、ククイ植物の木の実ではないことが明らかになった。これらの分析を基にして、FDA は、この製品はキバナキョウチクトウで、Nuez de la India ではないと判断した。FDA はまた、同様の販売説明のある他の製品にもキバナキョウチクトウが含まれている可能性があるかと懸念している。キバナキョウチクトウの摂取は深刻な有害健康影響を引き起こし、死に至る可能性がある。

FDA の対応

FDA はこれらの製品を販売している第三者プラットフォームと積極的に協力し、対策についての追加情報が入手可能になり次第、提供することになっている。さらに、FDA は連邦及び州のパートナーと協力し、これらの製品に関する懸念にさらに対処するために、有害事象、製品への苦情、その他の新たな問題について市場を監視している。

6. 公示

- **X MAX Triple Shot Energy Honey は表示されない医薬品成分を含む**

X MAX Triple Shot Energy Honey contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/x-max-triple-shot-energy-honey-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている X MAX Triple Shot Energy Honey に、タダラフィルの含有が確認された。製品写真あり。

- **WeFun は表示されない医薬品成分を含む**

WeFun contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/wefun-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている WeFun に、シルデナフィルの含有が確認された。製品写真あり。

- **Genergy は表示されない医薬品成分を含む**

Genergy contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/genergy-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている Genergy に、タダラフィルの含有が確認された。製品写真あり。

- **Round 2 は表示されない医薬品成分を含む**

Round 2 contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/round-2-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている Round 2 に、タダラフィルの含有が確認された。製品写真あり。

- **Mens Maximum Energy Supplement** は表示されない医薬品成分を含む

Mens Maximum Energy Supplement contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/mens-maximum-energy-supplement-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている Mens Maximum Energy Supplement に、シルденаフィルの含有が確認された。製品写真あり。

- **BIG GUYS Male Energy Supplement** は表示されない医薬品成分を含む

BIG GUYS Male Energy Supplement contains hidden drug ingredient

8-22-2023

<https://www.fda.gov/drugs/medication-health-fraud/big-guys-male-energy-supplement-contains-hidden-drug-ingredient>

FDA の研究所分析により、性的強化製品として販売されている BIG GUYS Male Energy Supplement に、シルденаフィルの含有が確認された。製品写真あり。

7. 警告文書

- **Daxal Cosmetics Private Limited**

AUGUST 03, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/daxal-cosmetics-private-limited-663658-08032023>

記録へのアクセスとコピーの拒否の問題。歯磨き粉製品成分に、ジエチレングリコール (DEG) およびエチレングリコール (EG) 置換の影響を受けやすい成分が含まれる。

- **Skyline Herbals Private Limited**

AUGUST 03, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/skyline-herbals-private-limited-663659-08032023>

記録へのアクセスとコピーの拒否の問題。歯磨き粉製品成分に、ジエチレングリコール (DEG) およびエチレングリコール (EG) 置換の影響を受けやすい成分が含まれる。

- **Orchid Lifesciences**

AUGUST 03, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/orchid-lifesciences-663478-08032023>

最終製剤の CGMP、不純品の問題。歯磨き粉製品や局所鎮痛剤のジエチレングリコール (DEG) 又はエチレングリコール (EG) の不適切な検査。

- **Suhan Aerosol**

AUGUST 03, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/suhan-aerosol-663489-08032023>

最終製剤の CGMP、不純品の問題。歯磨き粉製品や手指消毒剤のジエチレングリコール (DEG) 又はエチレングリコール (EG) の不適切な検査。

- **STC India Private Limited**

JULY 21, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/stc-india-private-limited-661775-07212023>

食品 CGMP、製造、包装、衛生管理、不純品の問題。口内清涼剤 (ムクワス)。

- **Hekma Center, LLC**

JUNE 02, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/hekma-center-llc-637652-06022023>

未承認の医薬品、ダイエタリーサプリメントの食品表示、不正表示の問題。ハーブ製品を含む。

- **STPCA Inc. dba Sun Ten Laboratories**

APRIL 07, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/stpca-inc-dba-sun-ten-laboratories-645336-04072023>

未承認の医薬品、ダイエタリーサプリメントの食品表示、不正表示、不純品の問題。サプリメント製品を含む。

- **Knobbe Cattle Company Inc.**

MAY 31, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/knobbe-cattle-company-inc-657009-05312023>

動物組織への違法残留医薬品、不純品の問題。牛の腎臓組織からデスフロイルセフチオフルが基準値 0.4 ppm を超え、検出される。

- **Lone Pine Farm**

JUNE 26, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/lone-pine-farm-654161-06262023>

公衆衛生法 (PHS)、殻付き卵に関する規則、不純物の問題。

- **Sol-ti Inc.**

MARCH 16, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/sol-ti-inc-653764-03162023>

果汁製品の HACCP、食品 CGMP、不純品、衛生管理の問題。

- **Source-Omega LLC**

AUGUST 08, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/source-omega-llc-652322-08082023>

未承認の医薬品、不正表示の問題。オメガ-3 のサプリメント製品を含む。

- **Seafood Brothers Inc., DBA G & L Seafood Inc.**

MAY 18, 2023

<https://www.fda.gov/inspections-compliance-enforcement-and-criminal-investigations/warning-letters/seafood-brothers-inc-dba-g-l-seafood-inc-656903-05182023>

水産食品の HACCP、食品 CGMP、不純品、衛生管理の問題。

- 米国環境保護庁（EPA : Environmental Protection Agency） <https://www.epa.gov/>

1. **EPA は 29 の PFAS とリチウムの最初の全国モニタリングデータを発表**

EPA Releases Initial Nationwide Monitoring Data on 29 PFAS and Lithium

August 17, 2023

<https://www.epa.gov/newsreleases/epa-releases-initial-nationwide-monitoring-data-29-pfas-and-lithium>

本日、米国環境保護庁（EPA）は、第 5 次規制対象外汚染物質モニタリング規則（UCMR 5）に基づき収集された最初のデータ一式を公表する。EPA の PFAS 戦略ロードマップを実現するための最新の措置として、UCMR 5 は、29 種類の PFAS とリチウムが全米の飲料水システムでどの程度の頻度で検出されるかについての EPA の理解を深める新たなデータを提供する。

今回の最初のデータ公表は、今後 3 年間に EPA が受け取る予定の全結果の約 7%に相当する。EPA は、2026 年にデータ報告が完了するまで、四半期ごとに結果を更新し、EPA の国家汚染物質発生データベース（NCOD）において一般に公表する予定である。

データは以下から：

Occurrence Data from the Unregulated Contaminant Monitoring Rule

<https://www.epa.gov/dwucmr/occurrence-data-unregulated-contaminant-monitoring-rule>

この UCMR において MRL は Minimum Reporting Level（最小報告濃度）で PFOS と PFOA は 0.004 µg/L、PFBS と PFHxS は 0.003 µg/L、GenX は 0.005 µg/L、など 0.003~0.005 µg/L の範囲であった。一方で健康助言（HAs）は PFOA が 0.000004 µg/L、PFOS が 0.00002 µg/L なので報告=超過になる。GenX と PFBS について HAs は MRL より高い。まとめに

よると PFOA は 4667 の検査結果のうち 267 で検出され、PFOS は 4665 のうち 279 で検出された。6%程度が HAs 超過となる。なおリチウムは 21.1%が HAs (10 µg/L) 超過であった。

● 米国農務省 (USDA : Department of Agriculture) <https://www.usda.gov/>

1. USDA の研究が母乳を与えるための栄養ベースラインを設定

USDA Study Sets Nutrition Baseline for Breastfeeding

Aug 15, 2023 by Scott Elliott,

<https://www.usda.gov/media/blog/2023/08/15/usda-study-sets-nutrition-baseline-breastfeeding>

8 月は母乳月間である。USDA が母子の最適な健康のために必要な食事を定義する研究を行っていることを知っている？USDA の ARS が母乳中のビタミンやミネラルのガイドラインを設定する国際研究を率いている。

母乳は赤ちゃんにとって最良の方法だが母親の食事が貧弱だとビタミンやミネラルが少なくなる。問題はどやうやってそのような値を決めるかで、私たちは 4 カ国 (ブラジル、バングラデシュ、デンマーク、ガンビア) 1000 組の母子の最初の 9 ヶ月間の母乳と血液の微量栄養素を測定した。米国が含まれないのは多くの人がサプリメントを使用していて正常より多い可能性があるからである。

● 米国消費者製品安全委員会 (CPSC : Consumer Product Safety Commission)

<https://www.cpsc.gov/>

1. 消費者に、飲み込みハザードがあるため Irazza 強力磁石ボールの使用を直ちに止めるよう警告

CPSC Warns Consumers to Immediately Stop Using Irazza High-Powered Magnetic Ball Sets Due to Ingestion Hazard

August 17, 2023

<https://www.cpsc.gov/Newsroom/News-Releases/2023/CPSC-Warns-Consumers-to-Immediately-Stop-Using-Irazza-High-Powered-Magnetic-Ball-Sets-Due-to-Ingestion-Hazard>

販売業者は中国の会社で CPSC の違法警告文書に回答しない。

- カナダ食品検査庁（CFIA : Canadian Food Inspection Agency）

<https://inspection.canada.ca/eng/1297964599443/1297965645317>

1. リコール情報

- カフェイン表示要件の問題ため、**Mateína** ブランドの **Yerba Mate Sparkling Energy Infusions** をリコール

Mateína brand Yerba Mate Sparkling Energy Infusions recalled due to caffeine labelling requirements

2023-08-11

<https://recalls-rappels.canada.ca/en/alert-recall/mateina-brand-verba-mate-sparkling-energy-infusions-recalled-due-caffeine-labelling>

対象製品は、カフェインの過剰摂取を避けるためのサプリメント食品の注意表示要件に準拠していないため、リコール。

- カフェイン含有量と表示の問題ため、**Monster** ブランドのカフェイン入りエネルギードリンクをリコール

Monster brand caffeinated energy drinks recalled due to caffeine content and labelling issues

2023-08-11

<https://recalls-rappels.canada.ca/en/alert-recall/monster-brand-caffeinated-energy-drinks-recalled-due-caffeine-content-and-labelling>

製品は、カフェイン含有量と表示に関して様々な違反があり、リコール。

- カフェイン含有量と表示の問題ため、**Raze Energy** ブランドのカフェイン入りエネルギードリンクをリコール

Raze Energy brand caffeinated energy drinks recalled due to caffeine content and labelling issues

2023-08-19

<https://recalls-rappels.canada.ca/en/alert-recall/raze-energy-brand-caffeinated-energy-drinks-recalled-due-caffeine-content-and>

製品は、カフェイン含有量と表示に関して様々な違反があり、リコール。

- **Mindblow** ブランドのエネルギー飲料は重大な健康リスクを引き起こす可能性のある許可されない成分によりリコール

Mindblow brand Energy drinks recalled due to non-permitted ingredients that may pose a serious health risk

2023-08-17

<https://recalls-rappels.canada.ca/en/alert-recall/mindblow-brand-energy-drinks-recalled-due-non-permitted-ingredients-may-pose-serious>

対象製品は、深刻な健康リスクを引き起こす可能性のあるムクナ豆エキス (98%L-ドパ) などの許可されていない成分が含まれているため、市場からリコール。

● カナダ研究評議会 (NRC : National Research Council Canada)

<https://nrc.canada.ca/en/>

1. 食品安全ニュース：国立研究評議会は新しいシーフード毒素を発見

Food safety news: NRC unearths novel seafood toxin

July 19, 2023 - Halifax, Nova Scotia

<https://nrc.canada.ca/en/stories/food-safety-news-nrc-unearths-novel-seafood-toxin>

毎年、世界中で 50 万人ほどがシガテラという中毒になっている。原因の毒素であるシガトキシンは魚が食べる藻類の中に潜んでおり、魚には害はないが、その魚を食べる人間には有毒である。シガテラの原因となる毒素は、カリブ海、インド洋、太平洋に存在することが知られているが、最近ではカナリア諸島、地中海東部、メキシコ湾西部でも発見されている。太平洋のシガトキシンの発生源である藻類は何年も前に特定されたが、カリブ海では 30 年近く研究されているが不明であった。しかし 2023 年、カナダ研究評議会 (NRC) と米国の南アラバマ大学、テキサス大学オースティン校、米領ヴァージン諸島大学、ノルウェー獣医研究所の研究者との共同プロジェクトによって、カリブ海のシガトキシン発生源となる藻類 (*Gambierdiscus silvae*, *Gambierdiscus caribaeus*) とカリブ海のシガトキシン (C-CTX) の新規類縁体 (C-CTX5) が同定された。米国チームが藻類のサンプルを採集し、藻類を成長させるための培養系を確立し、毒性のスクリーニングを実施した。NRC は毒素の化学プロファイルと構造を決定した。ノルウェーの研究者は藻類の毒素が魚に検出される毒素に変換することを確認するために酵素を用いた培養実験を実施した。NRC の研究者によると、NRC は次世代の測定ツールの開発に継続的に協力し、協力者らとともにカナダ及び世界中の試験研究機関が毒素の測定に利用できる認定標準物質を作成する予定である。

* Algal ciguatera toxin identified as source of ciguatera poisoning in the Caribbean

Elizabeth M Mudge et al.

Chemosphere. 2023 Jul;330:138659. doi: 10.1016/j.chemosphere.2023.138659

<https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S0045653523009268?via%3Dihub>

カリブ海に生息する藻類 *Gambierdiscus silvae* と *Gambierdiscus caribaeus* がシガトキシン C-CTX5 (新規) を産生することを発見した。魚類肝ミクロソームを用いた *in vitro* 代謝試験で、C-CTX5 が、カリブ海のシガテラ魚によく見られるシガトキシンの C-CTX1/2 に変換した。さらに、*G. silvae* の C-CTX5 には電位依存性ナトリウムチャンネルに特異的な活

性があることが確認された。

-
- オーストラリア・ニュージーランド食品基準局（FSANZ : Food Standards Australia New Zealand） <https://www.foodstandards.gov.au/Pages/default.aspx>

1. 食品基準ニュース

Food Standards News

Issue 219 August 2023

<https://mailchi.mp/foodstandards.gov.au/food-standards-news-august-2023>

- シドニーで食品インシデントフォーラムワークショップ
- リステリア中毒を避ける方法
- 最新情報・意見募集・リコール情報

2. 食品基準通知

- **Notification Circular 256-23**

16 August 2023

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notification%20Circular%20256-23.aspx>

認可と閣僚会議通知

- 醸造加工助剤としての GM *Trichoderma reesei* 由来 α グルコシダーゼ
- 昆虫耐性トウモロコシ系統 MON95275 由来食品

- **Notification Circular 257-23**

23 August 2023

<https://www.foodstandards.gov.au/code/changes/circulars/Pages/Notification-Circular-257-23.aspx>

新規申請と提案

- 強調表示のための添加された糖の定義

意見募集（オーストラリアは 10 月 4 日、その他の地域は 10 月 22 日まで）

- MRL（提案 M1021）

-
- オーストラリア農薬・動物用医薬品局（APVMA : Australian Pesticides and Veterinary Medicines Authority） <https://apvma.gov.au/>

1. 特定のジメトエート製品の使用停止を提案

Proposed suspension of specific dimethoate products

15 August 2023

<https://apvma.gov.au/node/116756>

オーストラリア農薬・動物医薬品局(APVMA)は皮が不可食である果物の収穫後の消毒液として使用するジメトエートを含む化学製品の登録と表示を停止するよう提案した。APVMA は、ジメトエートとその主な分解生成物であるオメトエートの残留農薬の最大許容量(最大残留基準値またはMRL)が、アボカドとマンゴーで超過していることを示す報告書を受け取った。APVMA が入手できた情報から、ジメトエートを、収穫後の消毒液として承認された使用指示書に従って使用したことでMRLが超過した可能性が高いことが示されている。

APVMA は検出された残留物のレベルがヒトの健康に重大なリスクを引き起こす可能性は低いと考えているが、予防措置として、これらの特定のジメトエート製品の使用停止を提案した。APVMA は引き続き、他の全ての承認されているジメトエートの使用は安全だと納得している。

ジメトエート製品が提案されたように使用停止となると、APVMA は12ヶ月間有効な見なし許可で使用指示書を提供する。これらの指示書によりジメトエートは継続して利用できるが、熱帯・亜熱帯果物への収穫後の消毒液としてのジメトエートの使用は禁止されることになる。

APVMA はまた、皮が不可食の多種多様な熱帯・亜熱帯果物(作物グループ006)への収穫後のフラットスプレーとしてのジメトエートの使用を停止するために、Horticulture Innovation Australia Ltd 社が持つ許可書87164への措置も提案している。皮が不可食の柑橘系果物へのジメトエートの使用許可は依然として容認される。

ジメトエートの登録保持者やその他の利害関係者は、この製品を使用停止するべきではないという理由を説明する情報を提供するために、2週間与えられる。一般人にも使用停止案に関するコメントを募集している。コメントは使用停止案への理由に関連するものとし、2023年8月29日までにAPVMAに提出しなければならない。

ジメトエートを含む登録済みの化学製品は、承認されているラベルの指示書に従って、パブリックコメント募集期間中、継続して使用できる。APVMA は最終決定前に全ての提案を検討する。

● オーストラリア TGA (TGA : Therapeutic Goods Administration)

<https://www.tga.gov.au/>

1. ターメリックまたはクルクミンを含む薬 - 肝障害のリスク

Medicines containing turmeric or curcumin - risk of liver injury

15 August 2023

<https://www.tga.gov.au/news/safety-alerts/medicines-containing-turmeric-or-curcumin-risk-liver-injury>

Curcuma longa(ターメリック/ウコン)及び/又はクルクミンを含む医薬品及びハーブサプリメントは、まれに肝障害を引き起こす可能性がある、と消費者及び医療従事者に勧告されている。このリスクは、天然のクルクミンを含む *Curcuma* 種(*Curcuma aromatica* (キョウオウ)、*Curcuma zanthorrhiza*、*Curcuma zedoaria* (ガジュツ))の他の成分にも関連する。これらの *Curcuma* 種及び/又はクルクミンを含む医薬品やハーブサプリメントは、処方箋や医療従事者の助言なしで、スーパーマーケット、健康食品店及び薬局で購入できる。これらの *Curcuma* 種及び/又はクルクミンを含むオーストラリアの医薬品登録簿(ARTG)には、600種類以上の医薬品が登録されている。

肝障害との関連

オーストラリア TGA には、2023年6月29日までに、*Curcuma longa*(ウコン)及び/又はクルクミンを含む製品を摂取した消費者が経験した肝臓障害の報告が18件あった。うち9件には、*Curcuma longa*(ウコン)又はクルクミン製品によって引き起こされた可能性のある肝障害を示唆する十分な情報があった。さらに、うち4件では、肝障害に寄与した可能性のある他の成分はなかった。これらのうち2件は重篤であり、そのうち1件は致命的な結果をもたらした。他の5件は、肝障害に関与した可能性のある他の成分を含む製品であった。これらの症例に加えて、科学文献にオーストラリア及び海外の症例報告がいくつかあり、他の国の規制当局に複数の症例が報告されている。

これらの報告を受けて、TGA は、成分 *Curcuma longa*(ウコン)とクルクミン及び肝臓損傷のリスクに関する安全性調査を完了した。入手可能なエビデンスは、*Curcuma longa*(ウコン)及び/又はクルクミンを医薬品の形態で服用することが、まれに肝障害のリスクがあることを示している。吸収又は生物学的利用能が増強された製品及び/又は高用量の製品では、リスクが高くなる可能性がある。現在又は過去に肝障害がある人は、このまれな有害事象を発現する可能性が高い。しかしながら、現時点では、どの薬剤が、高リスクかを決定的に同定するには十分な情報がない。TGA はこの問題を引き続き監視し、現在、ラベル警告に関する協議を含む、さらなる規制措置を検討している。TGA は、2023年後半に新しいラベル表示要件の詳細を含む、この協議の結果を公表する予定である。

肝損傷のリスクは、食品として典型的な食事量で摂取される場合、*Curcuma longa*(ウコン)とは関係がないようである。

Curcuma 種とクルクミンについて

Curcuma longa(ウコン)は、4,000年以上にわたって食用スパイスとして使用されてきた植物であり、伝統的なインド(アーユルヴェーダ)や中国医薬品の薬用としても使用されてきた。クルクミンは *Curcuma longa*(ウコン)に天然に存在する成分であり、単離して医薬品の有効成分として使用することができる。*Curcuma aromatica*、*Curcuma zanthorrhiza*、

Curcuma zedoaria といった *Curcuma* 種にはクルクミンが含まれているため、*Curcuma* 成分のいずれかを含む医薬品/ハーブサプリメントを摂取することで肝障害のリスクもある。

消費者向け情報

ウコンやクルクミンを含む医薬品やハーブサプリメントを服用する場合は、まれに肝障害のリスクがあることに注意すべきである。肝障害はまれな有害事象であるが、重篤になることもある。次のような症状がある場合は、直ちに服用を中止し、医師に相談すること：皮膚や目の黄ばみ、濃い色の尿、吐き気、嘔吐、異常な疲れ、脱力、胃または腹痛、食欲不振。

予防策として、現在または過去に肝臓に問題があった場合は、上記の *Curcuma* 種及び/又はクルクミンを含む薬やハーブのサプリメントを避けるべきである。

医療従事者向け情報

医療従事者は、*Curcuma longa*(ウコン)、*Curcuma aromatica*、*Curcuma zanthorrhiza*、*Curcuma zedoaria* 及び/又はクルクミンを含む製品が一部の人に肝障害を引き起こす可能性があることを認識すべきである。肝障害の症状のある患者を治療する場合は、補完薬が関与している可能性があるかどうかを考慮すべきである。既存または既往の肝病変の有する患者においては、上記の *Curcuma* 種及び/又はクルクミンを含有する医薬品またはハーブのサプリメントの使用は避けるべきである。

*ウコンを含む食品サプリメントの摂取に関連する有害作用--フランス食品・環境・労働安全衛生庁(ANSES)

<https://www.anses.fr/en/content/adverse-effects-associated-consumption-food-supplements-containing-turmeric>

*許容成分決定の変更案：低-無視できるリスク変更 2023-24

TGA は、以下の許容成分決定の低-無視できるリスク変更案について、意見を求めている。

- *Curcuma* 種とクルクミン及び肝障害のリスク
- 緑茶抽出物及び肝損傷のリスク
- 安全レベルのベンゾフェノン
- 大豆ホスファチジルセリン強化成分の要件の明確化
- *Terminalia ferdinandiana* の要件の明確化

協議の閲覧及び意見提出については以下。

<https://consultations.tga.gov.au/medicines-regulation-division/low-neg-risk-2023-2024/consultation/subpage.2021-08-02.5738922568/>

*関連記事：食品安全情報（化学物質）No. 15/ 2022（2022. 07. 20）

【FSA】ターメリック調査

【COT】ターメリックとクルクミンサプリメントのヒト健康へのリスクの可能性についてのディスカッションペーパー及び補遺

【ANSES】ターメリックを含むフードサプリメント摂取に関連する有害影響

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202215c.pdf>

- ニュージーランド第一次産業省 (MPI : Ministry of Primary Industry)

<https://www.mpi.govt.nz/>

1. 乳児を保護するための強化製パン粉が本日から義務化される

Fortifying bread-making flour to protect babies is mandatory from today

14 August 2023

<https://www.mpi.govt.nz/news/media-releases/fortifying-bread-making-flour-to-protect-babies-is-mandatory-from-today/>

乳児を重篤な先天異常から守るための重要な対策として、本日からパン製造用のすべての非有機小麦粉にビタミン B 群葉酸を強化しなければならない。オーストラリア、米国、カナダを含む 80 カ国以上が、葉酸強化の義務化を安全に導入し、優れた成果を上げている。

-
- 香港政府ニュース <https://www.cfs.gov.hk/english/index.html>

Centre for Food Safety of Food and Environmental Hygiene Department, The Government of the Hong Kong Special Administrative Region の承諾を得て掲載しています。

1. 福島原子力発電所(FNPS)からの処理水排出と食品安全性に関して

- 放射能汚染について食品安全性への懸念

Food Safety Concern on Radioactive Contamination

16 Aug 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/multimedia/multimedia_pub/multimedia_pub_fsf_205_01.html

最近、メディアは福島原子力発電所(FNPS)からの処理廃水の排出や、海洋環境や海産物の汚染の可能性への懸念を表明している。食品の安全性を保証することは香港特別行政区政府の最重要検討事項である。2011 年の FNPS インシデント (福島原子力発電所事故) 後、政権は日本の食品に対する輸入規制措置を課している。最新の知見や進展を踏まえて、政権は日本からの輸入食品への輸入規制措置を見直している。

日本の排出計画

日本政府は 2023 年夏に FNPS の原子炉冷却工程で生成された処理廃水を海に放出する計画を立てている。この廃水は原子炉の放射性物質と直接接触しているため、高濃度の放射性物質を含んでいる。日本が計画通りに排出を進めると、30 年間続く予定である。この長

期間に、浄化システムが効果的に作動しない場合は、食品の安全性や海洋生態系に重大なリスクをもたらされる可能性がある。この計画には国際社会や一般市民からの懸念が生じている。

国際原子力機関の審査

国際原子力機関(IAEA)が設置した特別委員会は日本の排出計画を審査している。特別委員会は日本への訪問を実施し、排出計画の一部の技術的・規制的側面について日本の機関に提案するために審査報告書を発表した。IAEAは排出前の審査について2023年7月に報告書を発表し、排出中も審査を継続すると示した。

日本の輸入水産物の検査強化

事前に東京電力ホールディングス(株)(TEPCO)が発表した報告書によると、FNPSの港湾エリアからサンプリングした魚には、コーデックスのガイドラインレベルの18倍の放射性物質セシウムが含まれていることがわかった。セシウムは食品を摂食し水を飲むことで体内に取り込まれる可能性がある。摂取後、血流に吸収され、身体全体に行き渡り、筋肉に集積する傾向がある。摂取すると、魚は健康へのリスクをもたらす可能性があり、がんを誘発する可能性が高まる。

福島でサンプリングされた魚がコーデックスのガイドラインレベルを超えているという報道を考慮して、食品安全センター(CFS)は対応する監視作業を調整し、輸入する日本の水産物の検査を強化した。該当する魚は2023年5月に捕獲され、分析報告書は2023年6月5日にTEPCOのウェブサイトにアップロードされた。実際、CFSは6月中旬以降、全ての日本の水産物を含むために検査範囲を広げている。

通説1：予防措置としてのヨウ素添加塩などのヨウ素の豊富な食品の摂取

放射性ヨウ素が関与している過去の原子力緊急事態では、甲状腺による放射性ヨウ素の取り込みを防ぐために、放射線の影響に対する防御の役割として、保健省からヨウ素剤が配布された。だが、ヨウ素豊富な食品やヨウ素添加塩が、ヨウ素剤と同様の放射線防護効果があることを示す科学的根拠はない。ヨウ素添加塩では、ヨウ素含有量は比較的少ない。その上、ヨウ素剤に含まれるヨウ素と同じ用量を吸収するには、1日にヨウ素添加塩を約2.5～5 kg 取らなければならない。過剰量の塩を摂取すると、高血圧、心臓病、腎臓病の患者には特に健康に有害である。

通説2：自分で購入した携帯型放射線検出器での放射線の測定

専門家が使用する電離放射線検出器(通常、核放射線検出器として知られる)は、必要な精度と感度があり、正確で信頼できる結果が得られることを保証するために、専門機関によって定期的に補正される必要がある。それに対して、自分で購入した携帯型放射線検出器は、必要な測定能力や、関連する専門家の認定や補正がされていない可能性があり、専門的な設備や人員による放射能監視や評価に置き換えることができない。そのため、一般人は自分で購入した核放射線検出器を用いて食品中の放射線レベルを測定できない可能性がある。

一般市民への助言

- 効果的な食品規制措置が設定されているため、市場で入手できる食品が高濃度の放射

線で汚染されている可能性は低い。

- CFS は、調べた結果や、日本産食品の放射性検査結果など、公衆の懸念を晴らすために一般人への日本の食品の安全性に関する情報の普及をさらに強化する。
- 必要な測定能力を持たない可能性があるため、食品中の放射能レベルを検出するために核放射線検出器を購入しないよう助言する。

取引業者への助言

- CFS は、排出計画の最新状況や、実行される可能性のある輸入規制措置をより良く把握できるようにするため、食材配達の手配など早めの準備ができるよう、国内の日本の食品の輸入業者やケータリング業者と緊密な連携を維持していく。

- **香港特別行政区政府は、日本の福島原発汚染水放出に強く反対する**

HKSAR Government strongly opposes Japan's discharge of nuclear-contaminated water at Fukushima

23 Aug 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/press/20230822_10450.html

香港特別行政区（HKSAR）政府は、福島原発の核汚染水を放出する日本政府の計画を受けて、行政長官のジョン・リー氏が環境生態署と関係者に指示を出し、食品の安全と香港市民の健康を守るために輸入規制措置を開始するよう各省に要請した。以下、環境生態署のメディア会見。 https://www.cfs.gov.hk/english/press/20230823_10453.html

- **香港特別行政区政府、日本から輸入する食品の食品安全性を強化する**

HKSAR Government strengthens food safety of food products imported from Japan

August 23, 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/press/20230823_10454.html

福島原子力発電所の核汚染水を放出するという日本政府の計画を受けて、環境生態局（EEB）、食品環境衛生署の食品安全センター（CFS）農業漁業保護局（AFCD）、香港天文台（HKO）、保健省及び政府研究所で構成される省庁間タスクフォースは、共同記者会見を実施した。日本から輸入される食品の食品安全強化の取り決めと詳細及び日本の核汚染水の放出に対する香港特別行政区政府（HKSAR）の取り組みについて概説した。

食品環境衛生署長の Irene Young 氏は、10 都市/都県産の水産物の輸入を禁止する食品安全令（命令）を発表したと述べ、2023 年 8 月 24 日以降に収穫、製造、加工、包装された、東京、福島、千葉、栃木、茨城、群馬、宮城、新潟、長野及び埼玉の 10 都市/都県産の水産物はすべて、香港への輸入及び販売が禁止される。これはすべての生、冷凍、冷蔵、乾燥またはその他の方法で保存された水産物、海塩及び未加工または海藻加工食品を含む。

香港への輸入が禁止されていない他の水産物、海塩、日本産の未加工又は海藻加工食品は、CFS が包括的な放射線検査を実施し、ガイドライン基準値を確認する。

さらに、日本からのある種の食品に対する既存の輸入規制措置を継続する。福島県産のす

すべての野菜、果物、牛乳、乳飲料及び乾燥乳は、香港への輸入が禁止されているが、隣接する千葉、栃木、茨城、群馬の4県産の食品は、日本の当局が発行した放射線証明書と輸出者証明書の添付があれば、輸入が許可されている。また、この5県産の冷蔵、冷凍ジビエ、肉及び家禽肉、卵は、放射線量がコーデックス委員会のガイドラインレベルを超えていないことを示す日本発行の放射線証明書の添付を条件に輸入が許可される。

CFS は今後も輸入日本産食品の検査を強化する。一般消費者が日本産輸入食品の最新の安全性情報をよりよく把握できるように、EEB は香港水域における環境放射線モニタリングと地元の漁獲物の放射性物質検査の結果、日本の輸入食品の放射性物質の検査結果を公表する。香港特別行政区政府は、関連する規制措置や最新の状況について知らせるために、日本の食品輸入業界及び外食産業と緊密に連絡を取り合うこと継続する。

● 食品汚染

Food Contaminants

22 Aug 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/programme/programme_rafs/programme_rafs_fc_01_30_Nuclear_Event_and_Food_Safety.html

日本産輸入食品に対する規制措置について、Latest News、Frequently Asked Questions、Press release の情報更新。

2. アスパルテーム：安全か？

Aspartame: Safe or Not?

16 Aug 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/multimedia/multimedia_pub/multimedia_pub_fsf_205_0_2.html

アスパルテームは40年以上広範な調査の対象となっており、その安全性は、FAO/WHO 合同食品添加物専門家委員会(JECFA)、欧州食品安全機関(EFSA)、米国食品医薬品局(FDA)、オーストラリア・ニュージーランド食品基準局(FSANZ)などの国際機関が包括的にレビューしている。これらの機関は、甘味料として使用するアスパルテームの安全性は科学的根拠により裏付けられていると、満場一致で結論している。にもかかわらず、新たな研究結果の入手の可能性を考慮して、国際がん研究機関(IARC)や JECFA は、近年、アスパルテームの摂取に関連する潜在的な発がん性のハザードや他の健康リスクを評価するために、独立した補完的なレビューを実施した。

アスパルテームとは何か？

アスパルテームは、ソーダ、チューインガム、アイスクリームなど様々な食品に1980年代以降広く使用されている、強力な低カロリー人工甘味料である。テーブルシュガーよりも約200倍甘いため、少量で食品中の砂糖と同じレベルに到達できる。

アスパルテームは、アスパラギン酸、フェニルアラニンという2つのアミノ酸部分から

なる。フェニルアラニンの部分は、アスパルテームに甘味を与えるためにわずかに修飾されている。経口摂取後、アスパルテームは、消化管で完全に加水分解され、アスパラギン酸、フェニルアラニン、メタノールを生成するが、これらはすべて、体内や広く様々な食品に天然に存在するものである。その後これらの代謝物質は血液に吸収されさらに代謝される。食品中のタンパク質由来の、あるいはアスパルテーム由来のこの 2 つのアミノ酸（すなわちアスパラギン酸とフェニルアラニン）は化学的に区別できず、我々の体内で同じように代謝される。

アスパラギン酸：アミノ酸の 1 種で、牛肉、家禽肉、乳製品、種子製品に存在し、体内でも生産される。ホルモン生成や正常な神経系機能の役割を果たす。

フェニルアラニン：アミノ酸の 1 種で、乳、卵、チーズ、豆類などほとんどのタンパク質を多く含む食品に存在する。脳の神経伝達物質（ドーパミンやノルエピネフリンなど）に合成される。

メタノール：果物や野菜に天然に存在し、代謝の結果として体内でも生産される。体内又は食品中に天然に生じる量をはるかに超える用量で毒性を示す。

IARC と JECFA によるアスパルテームの評価

IARC はアスパルテームの潜在的な発がん性の影響を評価し、一方 JECFA は、アスパルテームの食事暴露を考慮してリスク評価の中で起こりうる全ての健康影響を考慮した。

2023 年 7 月 14 日、IARC と JECFA による共同声明の知見は次のように要約された：

- IARC は、実験動物とヒトにおける発がん性の「限られた根拠」に基づき、アスパルテームをヒトに対して発がん性がある可能性がある（グループ 2B）と分類した。
- アスパルテームとがんの評価を可能にした 3 つの観察研究の中で、IARC は、人工甘味量入り飲料の摂取と肝臓がんのリスクとの間に正の関連性が観察されたことを指摘した、しかしながら、肯定的な知見の説明として、偶然性、バイアス、交絡を除外できなかった。
- JECFA は実験動物やヒトのデータから、アスパルテームは摂取後に有害影響があるという説得力のある根拠はなく、動物のアスパルテーム暴露とがんの発現との関連性を立証できないと結論した。この結論は、アスパルテームが消化管で完全に加水分解され、一般的な食品の摂取後に吸収されるものと同じ代謝物質になるという情報に裏付けられている。
- JECFA も、アスパルテームの食事暴露は健康上の懸念をもたらさないと結論し、以前に設定したアスパルテームの許容一日摂取量(ADI) 0–40 mg/kg 体重を変える理由はないと示した。

世界保健機関(WHO)は新たな根拠の監視を継続し、アスパルテーム暴露と消費者の健康影響との潜在的な関連性について、独立した研究グループに更なる研究を進展させるよう奨励している。

アスパルテームはどのように規制されている？

香港では、アスパルテームなどの食品への使用が承認されている甘味料は、JECFA など

の国際機関による安全性評価を受け、食品中甘味料規則(Cap. 132U)に従って規制されている。甘味料は優良製造規範(GMP)の条件に従って使用されなければならない、つまり、食品に添加される量は、望ましい効果を達成するのに必要な最低レベルまで制限される必要がある。

消費者はどうすべきか？

一部の消費者は体重管理の手段として甘味料を使用している。体重維持のカギは消費するカロリーより多くのカロリーを摂取しないことである。低カロリー甘味料は、テーブルシュガーの代わりにカロリーを減らす代用品として使用されることがある。とはいえ、それらは、その日の後半にもっと多くの食品を食べたり、食事全体で炭水化物、タンパク質、脂質などの他のカロリーを生み出す栄養素をより多く摂取したりすることで、控えたカロリーを取り戻さない場合にのみ、効果がある。長期的な体重維持は、賢明でバランスのとれた食事や定期的な運動など、健康的で活動的なライフスタイルにかかっており、これには長期的な取り組みが必要である。

3. 「オンライン食料品購入と配達 - 食品事業のための食品安全ガイドライン」案

Draft 'Online Grocery Shopping and Delivery - Food Safety Guidelines for Food Businesses'

22 Aug 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/whatsnew/whatsnew_fstr/food_safety_guidelines_for_food_businesses.html

食品安全センターは、事業者が業務において適切な食品安全対策を実施できるよう、食料品のオンライン購入と配達に関する食品安全ガイドライン案を作成した。

4. 違反情報

● 赤ガニのサンプル中の金属汚染が基準値超過する

Metal contamination exceeds legal limit in Red Crab sample

Wednesday, August 16, 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20230816_10444.html

フィリピン産赤ガニのサンプルから基準値 2 ppm を超過する 4.92 ppm のカドミウムが検出された。

● 包装済み朝食シリアルサンプルから基準値超過の酸化防止剤を検出

Antioxidant exceeds legal limit in prepackaged breakfast cereals sample

Tuesday, August 22, 2023

https://www.cfs.gov.hk/english/unsat_samples/20230822_10449.html

カナダ産包装済みビスケットシリアルのサンプルから、基準値 100 ppm を超える 340 ppm のジブチルヒドロキシトルエンが検出された。

-
- 韓国食品医薬品安全処 (MFDS : Ministry of Food and Drug Safety)

<https://www.mfds.go.kr/eng/index.do>

1. 日本産輸入食品の放射能検査の結果

輸入検査管理課

- 2023.8.4～2023.8.10

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43336

- 2023.7.28～2023.8.3

https://www.mfds.go.kr/brd/m_100/view.do?seq=43335

2. アレルギー誘発物質未表示輸入食品の摘発・措置

輸入流通安全課 2023-08-10

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=47549

食品医薬品安全処は、アレルギー誘発物質の表示対象卵を表示していない輸入・販売業者4カ所を「食品等の表示・広告に関する法律」違反で摘発して行政処分し、当該製品に対して販売中止および回収措置を行う。

*アレルギー誘発物質表示対象：卵（家禽類）、乳、蕎麦、ピーナッツ、大豆、小麦、サバ、カニ、エビ、豚肉、桃、トマト、亜硫酸類、クルミ、鶏肉、牛肉、イカ、貝類、松の実を原材料として使用した場合

<添付>アレルギー誘発物質（卵）未表示製品の状況

3. 給食安全管理のデジタル転換本格推進、2025年9月から私たちの子供の給食はより健康的で安全になる

情報化担当官 2023-08-09

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=47541

食品医薬品安全処は、健康的で安全な子供の食環境を作るため、保育園・幼稚園などの子供給食施設の衛生・栄養管理*を人工知能(AI)、モノのインターネット(IoT)など、最新情報通信技術を活用してデジタルに転換する「スマート子供給食管理システム事業」を本格推進する。

*食薬処は全国236カ所の子供給食管理支援センター（'23.6月基準）を通じて100人未満の小規模給食所（全国36,000カ所、'23.6月基準）の衛生・栄養管理を支援

事業推進期間は2023年から2030年までで、総事業予算は446億ウォン規模で、食薬処は民間の創造的なアイデアと最新情報通信技術を政府政策に反映してサービスの質を高め、システムを迅速に構築するために、今回の事業を「民間投資型ソフトウェア事業*」として推進している。

*2023.2.3.付科学技術情報通信部-食薬処合同報道資料である「第 1 号民間投資型公共ソフトウェア事業誕生」参照

食薬処は今回の事業を本格推進するため、8月9日から9月18日まで提案者公告を行い、事業を遂行する民間主体を募集する。公告期間終了後に提出された事業提案書に対してシステム構築・運営計画の適正性、民間資本・技術力などを総合的に評価し協約を締結する計画である。

* (手続き) 第三者提案公告 ('23.8 月) → 事業者選定評価 ('23.9 月) → 優先交渉対象者と交渉および協約締結 ('23.10 月) → 事業完了 ('30 年、1 年 10 ヶ月間構築) 後 5 年間運営)

主な課題は、栄養、アレルギー、季節、地域などを考慮した人工知能オーダーメイド型献立サービス、食材の保管・調理温度などのモノのインターネット基盤衛生管理サービス、子供給食管理支援センター：子供給食所間のデジタル行政サービスおよび保護者などに給食栄養・安全情報を提供するデジタルポータル構築など。

<添付>スマート子供給食管理システムの事業概要

4. 機能性表示食品と健康機能食品は異なります

サイバー調査チーム 2023-08-03

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=47528

食品医薬品安全処は、オープンマーケットなどで消費者が多く購入する機能性表示食品*のオンライン掲示物 240 件に対し、5 月から 6 月まで不当広告違反の有無などを集中点検した結果、「食品等の表示・広告に関する法律」に違反した 27 件(11.3%)を摘発し、放送通信審議委員会などにアクセス停止と管轄官庁に行政処分などを要請した。

*機能性表示食品とは、健康機能食品ではなく、一般食品で機能性を示すと知られている原料を含有する食品

今回の点検は 2020 年に機能性表示食品制度が導入*された後、関連製品の販売が着実に増加**したことにより、一般食品を健康機能食品と誤認・混同させる不当広告など不法行為から消費者被害を予防するために実施された。

*「不当な表示または広告で食品等の機能性表示または広告に関する規定」(食薬処告示)、2020.12.29.制定・施行

**現在 116 社で 294 品目 ('23.5 月基準) の機能性表示製品を販売

主な違反内容は、機能性表示食品であるにも関わらず、事前に自律審議を受けていない広告 (22 件、81.5%)、一般食品を健康機能食品と誤認・混同させる広告 (5 件、18.5%) など。

【摘発事例】

事前自律審議違反：機能性表示食品を広告するには、事前に自律審議機構(韓国食品産業協会)の審議を受け、審議された内容どおりに広告しなければならないが、機能性表示食品を販売しながら審議を受けずに「排便活動の円滑に役立つ」、「腸の健康まで考えた」などと広

告

健康機能食品誤認・混同：機能性表示食品を体脂肪減少に効果のある健康機能食品と誤認・混同してしまう「ダイエット、ダイエット補助食品、アメリカンダイエット」などと広告

今回の点検で審議を受けていない機能性表示食品の広告が多数摘発されただけに、食薬処は営業者に機能性表示食品に表示・広告をしようとする場合、自律審議機構である韓国食品産業協会で必ずその内容について事前審議を受けた後、表示・広告するよう要請した。また、不当広告などから被害を予防するために、消費者は機能性表示食品と健康機能食品の違いをよく理解し、目的に合わせて商品を購入することが必要である。

健康機能食品は、日常の食事でも不足しがちな栄養素や人体に有用な機能を持つ原料から製造し健康の維持に役立つ食品で、「～に役立つ」と機能性が表示され、健康機能食品マークが付けられている。これに対し機能性表示食品は、液状茶、加工油など機能性原料を使用して機能性表示を許容した一般食品で、「ある機能性に役立つと知られている～が食品に入っている」と「本製品は健康機能食品ではない」という文言が表示されている。

【購入前に製品リストを確認する方法】

(健康機能食品) 食品安全全国ホームページ(<https://www.foodsafetykorea.go.kr>)>食・安全>健康機能食品>健康機能食品検索

(機能性表示食品) 韓国食品産業協会ホームページ(www.kfia.or.kr)>資料公開>食品などの機能性表示・広告関連資料公開

食品医薬品安全処は、今後も健全なオンライン流通環境の造成と消費者被害予防のために国民の関心が高い製品を対象に不法・不当広告行為に対して取り締まりを持続的に強化すると同時に、オンライン販売業者とプラットフォーム業者が自律管理力量を強化できるよう積極的に支援する。

*食・健康機能食品虚偽・誇大広告などの情報は、食品安全全国(<https://www.foodsafetykorea.go.kr>)>専門情報>「食医薬虚偽・誇大広告」で確認

<添付>

- 1.機能性表示食品制度概要
- 2.主な摘発事例
- 3.機能性表示食品と健康機能食品の見分け方 (カードニュース)

5. このような「58 個の海外直輸入食品」の購入に注意してください！

輸入流通安全課 2023-08-03

https://www.mfds.go.kr/brd/m_99/view.do?seq=47527

食品医薬品安全処は、国内・外のオンラインショッピングモールなどで販売する海外直輸入食品のうち、有害成分の含有が疑われる製品 100 個を対象に、4月5日から7月13日まで企画検査を実施した結果、58 製品で国内搬入停止の対象原料・成分*が確認され、国内搬入を停止するよう措置した。

*「輸入食品安全管理特別法」第 25 条の 3 により麻薬類、医薬成分・漢方薬、不定物質

など国民健康に有害影響を及ぼす懸念があり、国内搬入を停止する必要がある原料・成分
今回の企画検査は、夏季の消費者の関心品目の中で国民健康に懸念がある海外直輸入食品の国内搬入を事前に停止し、消費者被害を防止するために実施された。検査対象は、減量効果の標榜製品（30 個）、筋肉強化効果の標榜製品（30 個）、豊胸効果の標榜製品（40 個）の合計 100 製品で、有害成分含有が疑われる製品を選別して選定した。

検査項目は、減量などを標榜した効能・効果を示すのに主に使用される国内搬入停止対象原料・成分*のうち、麻薬類（アンフェタミン、エフェドリンなど）、不定物質（シブトラミン、センノシドなど）などを選別して適用した。また、国内搬入停止対象原料・成分が現品に表示されているのかも確認した。

*「輸入食品安全管理特別法」により、国内搬入停止対象の原料・成分 282 種指定(’23.7.3.)
検査の結果、国内搬入停止対象原料・成分が確認された製品は、減量効果の標榜製品（15 個）、筋肉強化効果の標榜製品（18 個）、豊胸効果の標榜製品（25 個）である。

<添付>国内搬入停止対象原料・成分確認の製品（58 件）

● シンガポール食品庁（SFA : Singapore Food Agency）<https://www.sfa.gov.sg/>

1. 「未来に食料を与える：すべての人のためのアグリフードハブの構築」を訪れる 3 つの理由

Three (3) reasons to visit ‘Feeding our Future: Building an Agri-Food Hub for All’

18 Aug 2023

[https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/three-\(3\)-reasons-to-visit-feeding-our-future-building-an-agri-food-hub-for-all](https://www.sfa.gov.sg/food-for-thought/article/detail/three-(3)-reasons-to-visit-feeding-our-future-building-an-agri-food-hub-for-all)

Lim Chu Kang に計画しているアグリフードハブについて紹介する。また、2023 年 9 月 2-6 日の展示会開催の情報提供をしている。概要では、シンガポールの食料安全保障の歩みを学び、インタラクティブで魅力的な体験ができること、Lim Chu Kang がシンガポールのアグリフードハブへと変貌を遂げ、ビジネスとアグリフード労働者のチャンスに溢れている様子を垣間見ることができること、アグリフードアドベンチャーへの挑戦やファーマーズマーケットなど、エキサイティングなアクティビティが待っていること、等を挙げている。

● その他

食品安全関係情報（食品安全委員会）から

（食品安全情報では取り上げていない、食品安全関係情報に記載されている情報をお知らせします。）

- ・ オーストラリア保健・食品安全局（AGES）、重点活動「軽食堂及び外食産業における調理済みポテト製品中のアクリルアミド」に関する最終報告書を公表

- オーストリア保健・食品安全局（AGES）、重点活動「乳児用調製乳及びフォローアップミルク」に関する最終報告書を公表
- ベルギー連邦フードチェーン安全庁（AFSCA）、180°Cを超える温度の油で肉を主成分とする製品を揚げることに係る適用除外の申請の評価に関する意見書を公表
- ブラジル国家衛生監督庁（ANVISA）、動物由来食品における動物用医薬品の最大残留基準値の検索ツールを公表
- アルゼンチン保健省（MSAL）、薬剤耐性の予防及び管理に関する法律の制定を公表
- 台湾衛生福利部、「食品原料ライオンゴロシの葉の使用制限と表示規則」など 8 項目の草案を公表
- ブラジル国家衛生監督庁（ANVISA）、食品栄養表示ガイドラインにおける添加糖類に関する更新を公表
- フランス農業・食料主権省、パン製造業関連産業の取組みによりパンの塩分含有量を 20% 以上削減した旨を発表
- スイス連邦保健局（BAG）、年次報告書「スイスにおける環境放射能と放射線量 2022 年」を公表
- 中国国家市場監督管理総局、食品のサンプリング検査結果を公表（2023 年第 15 号）
- 中国海関総署、輸入食品の不合格リスト（2023 年 6 月分）を公表
- 台湾衛生福利部食品薬物管理署、輸入食品等の検査で不合格となった食品（2023 年 7 月分）を公表

以上

食品化学物質情報

連絡先：安全情報部第三室